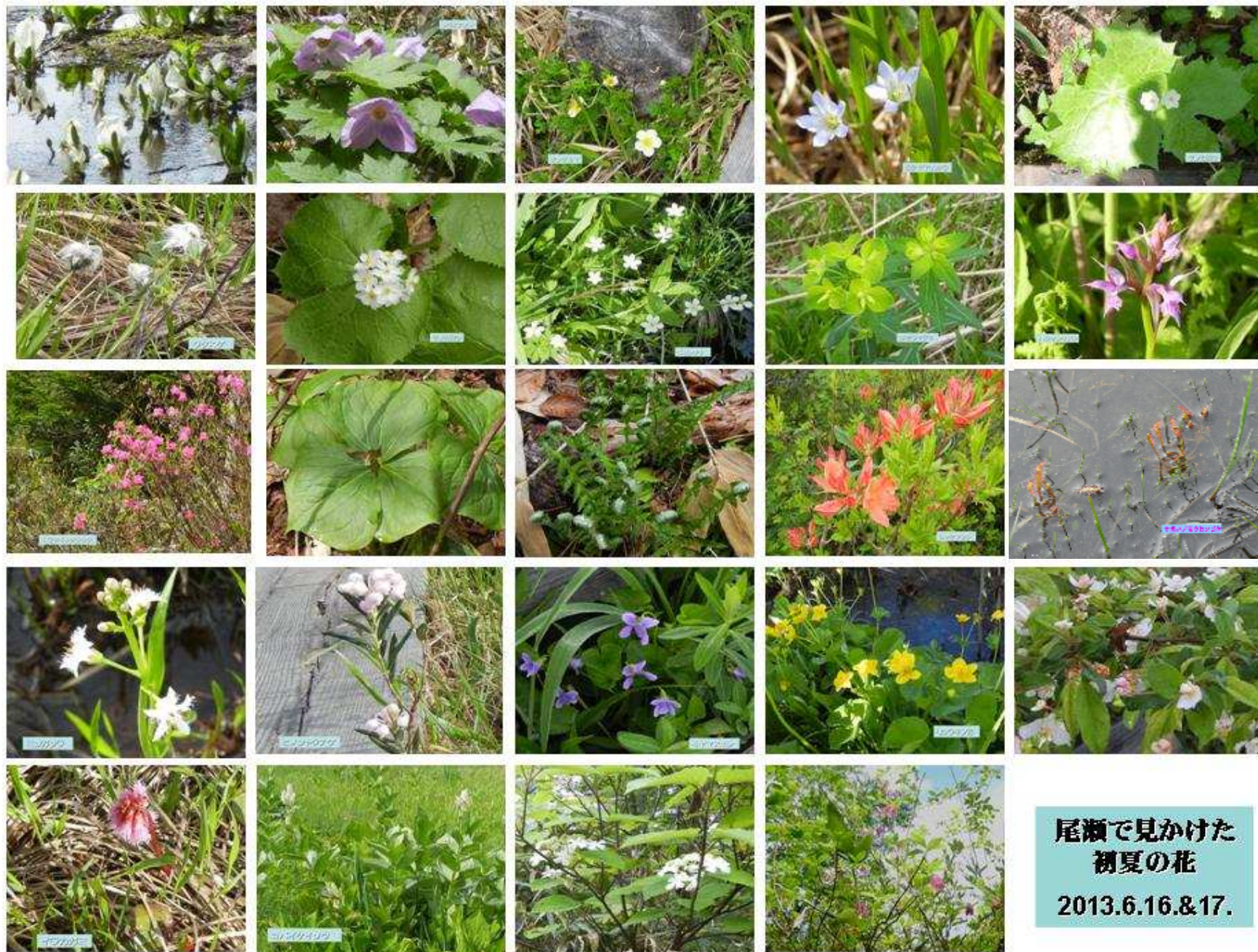


初夏の尾瀬ヶ原・尾瀬沼を歩く 2013.6.16.&17.

初夏6月 尾瀬の草花

1. 尾瀬ヶ原walk
2. 夜明け 朝霧の尾瀬ヶ原
3. 尾瀬ヶ原から尾瀬沼
4. 尾瀬で見つけた草花





尾瀬で見かけた
 初夏の花
 2013.6.16.&17.

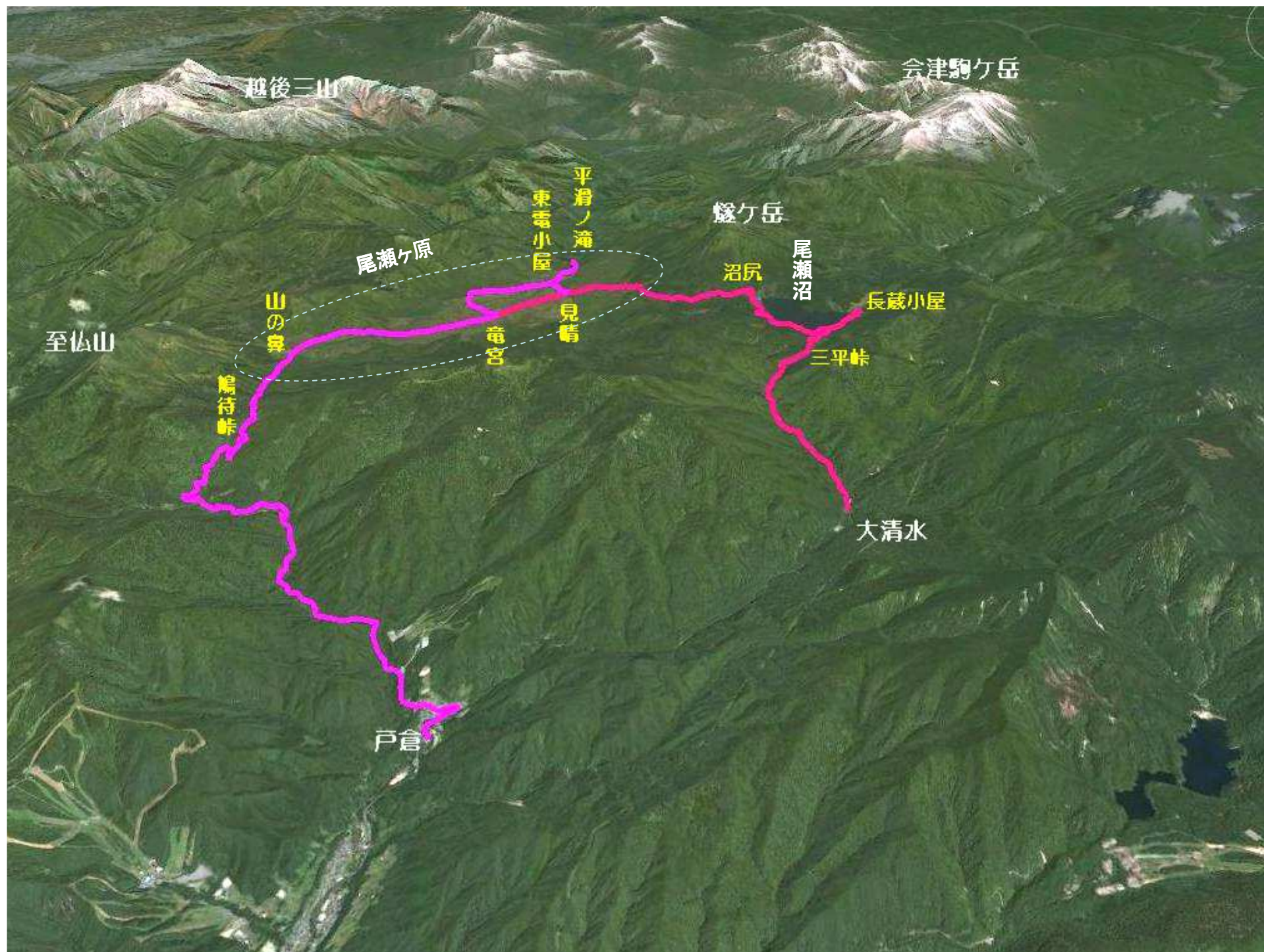
初夏の尾瀬ヶ原・尾瀬沼を歩く 2013.6.16.&17.

東京へ出かけた機会に久しぶりに水芭蕉が見たくなって尾瀬へいってきました。

水芭蕉の季節にはちょっと遅かったのですが、梅雨時ながらラッキーなことに晴天に恵まれ、水芭蕉をはじめ、湿原に咲く初夏の数多くの草花に出会えました。

また、念願の尾瀬ヶ原の中での小屋泊 ビールを飲みながらの夕景・朝もやの中刻々と変化する尾瀬の景色 尾瀬の中でのゆっくりとした時間もすごせて、満足の尾瀬歩きでした









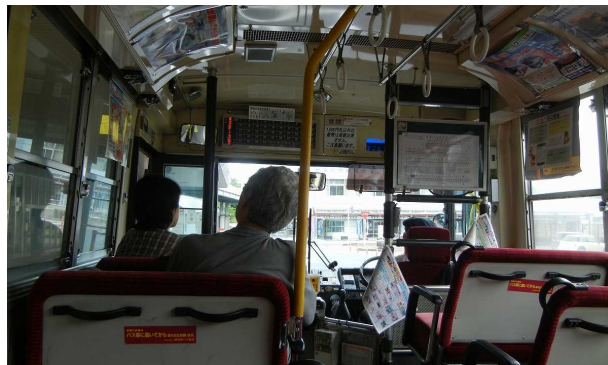
東京での会で久しぶりに出かけた関東 時期的にはちょっと遅いのですが、尾瀬の水芭蕉が見たくなって、
6月16日未明 土砂降りの東京から上越新幹線「Maxたにがわ」で尾瀬への群馬側の入口 沼田・上毛高原へ
高崎を過ぎると上越国境には青空もみえる 以前同じような天候で尾瀬に入ると快晴だった 今日はラッキーと



上越新幹線 トンネルを抜けると 上毛高原駅付近 車窓から眺める水上・沼田側 雲が切れて明るい



上越新幹線 上毛高原駅の朝 シーズンの日曜日早朝とはいえ、静かなもの 2013.6.16.



梅雨とはいえ尾瀬は観光シーズン バスに乗れるかと心配でしたが、降り立った上毛高原駅・バスで通過した沼田駅も静かなもの
 尾瀬の群馬側登山口 片品村の戸倉や大清水まで ここからまだ約2時間もかかる。
 いずこも同じであるが、ツアーや登山客の多くは東京から直接登山口へ高速バス・ツアーバスやマイカーで向かう



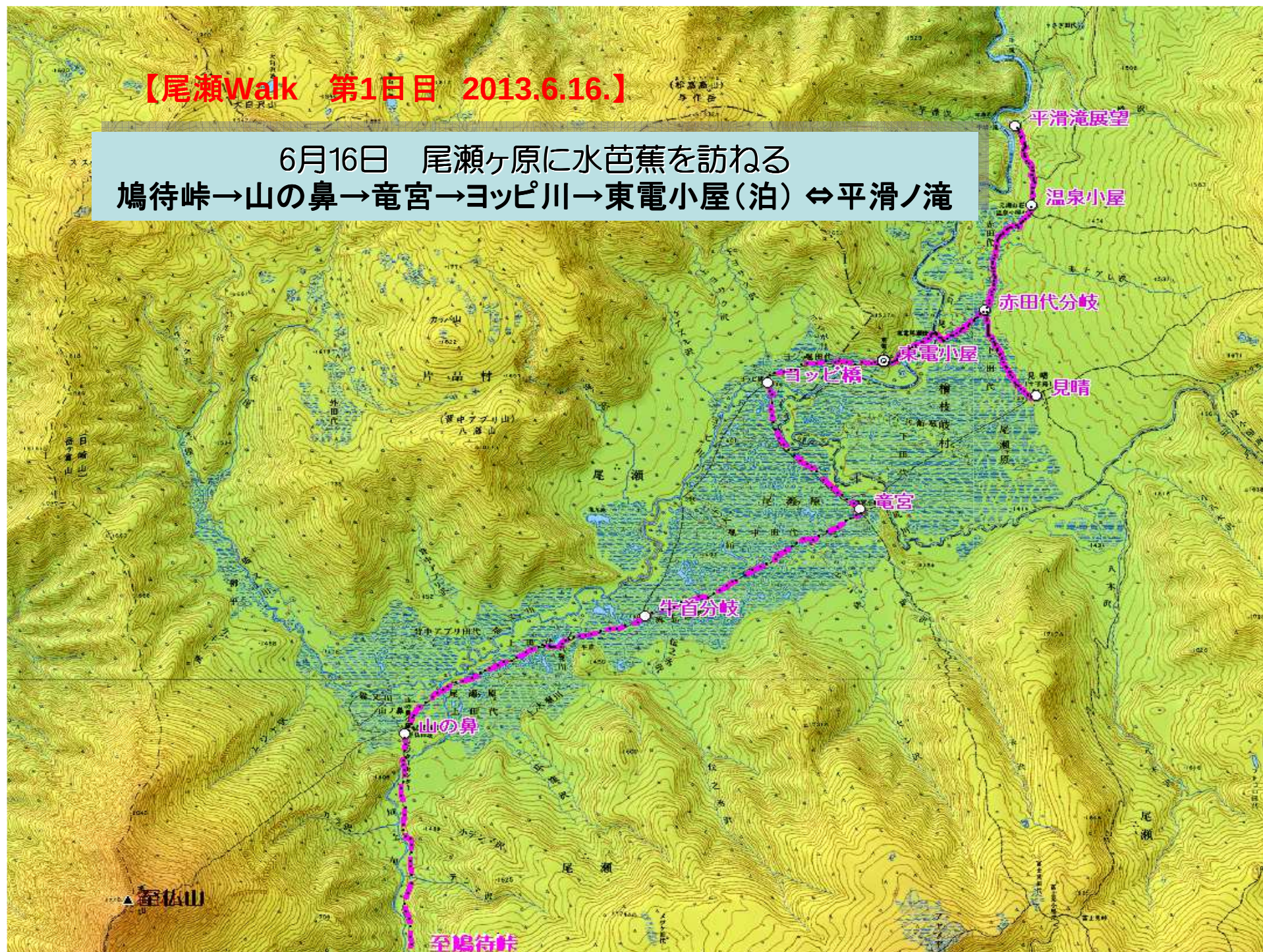
上毛高原駅からバスで利根川に合流する片品川沿いの谷間を約2時間 遡って片品村戸倉鳩待峠バス連絡所へ



尾瀬への群馬側登山口のひとつ「大清水」へは バスでさらに東へ15分遡る 金精峠を越えて日光へ向かう街道筋。
 現在多くの人が向かう鳩待峠は 群馬から尾瀬を経て会津へ向かう古くからの沼田街道の峠道
 小型バスに乗換えて北へ約20分ほどである。
 尾瀬の自然保護のため現在車道は鳩待峠でストップ 一般車の鳩待峠への通行も遮断されている。
 天候も回復してきたので、尾瀬をゆっくり楽しめそうなので、尾瀬ヶ原東電小屋の宿泊を予約し、鳩待峠へ

【尾瀬Walk 第1日目 2013.6.16.】

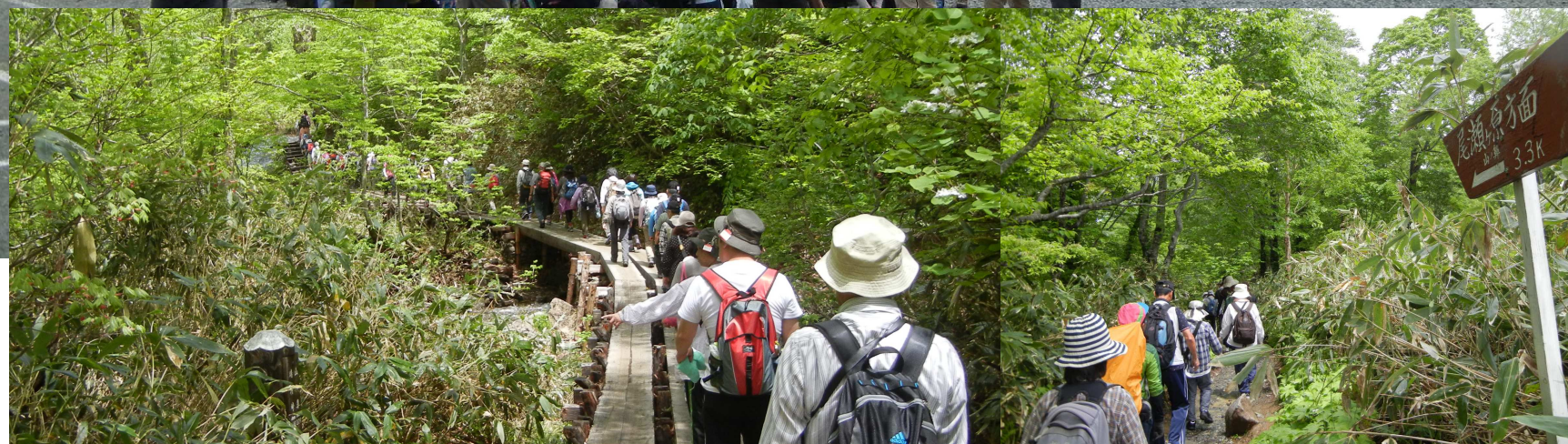
6月16日 尾瀬ヶ原に水芭蕉を訪ねる
鳩待峠→山の鼻→竜宮→ヨツピ川→東電小屋(泊) ⇔ 平滑ノ滝

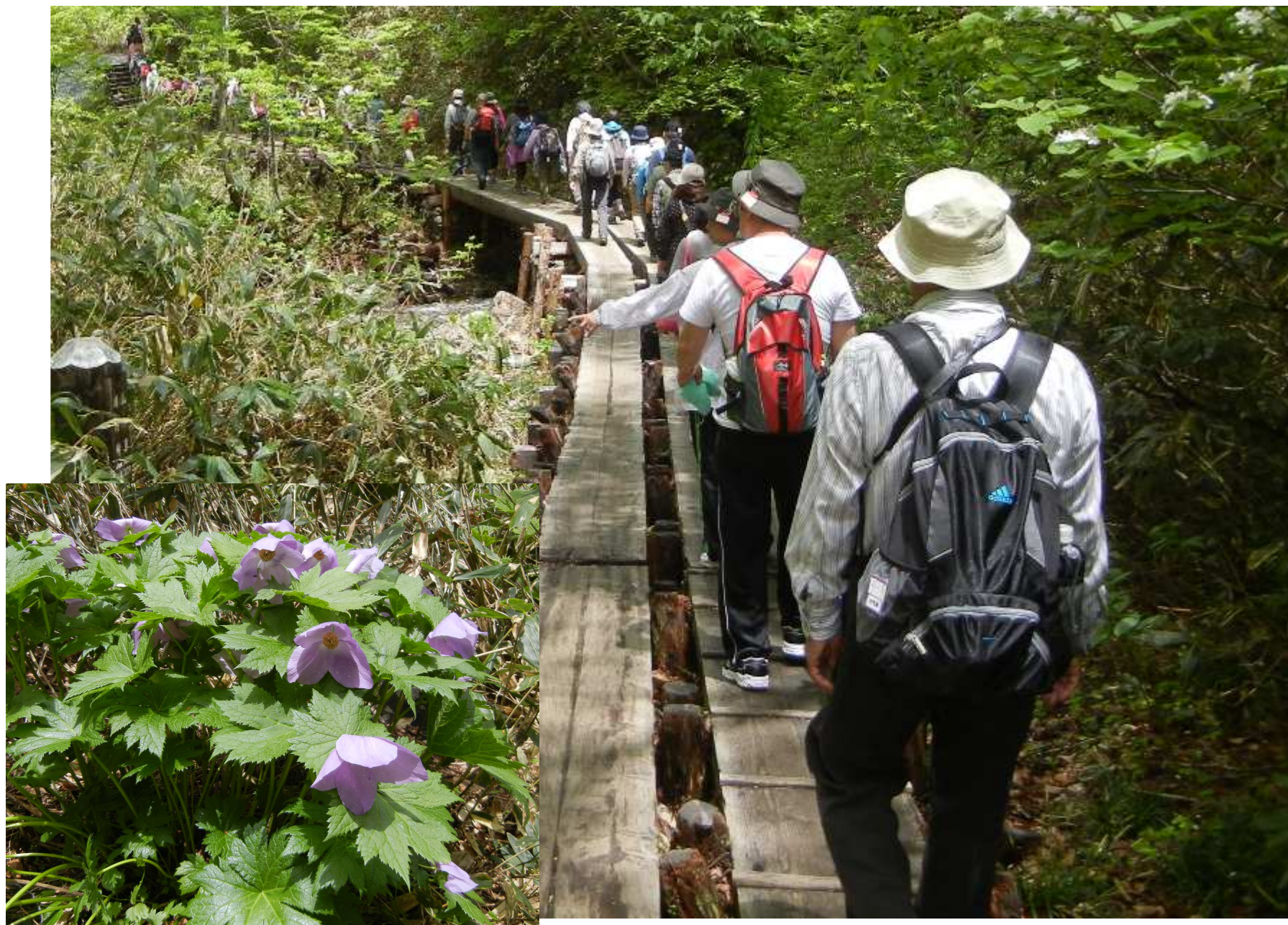


尾瀬への群馬側登山口 鳩待峠 2013. 6. 16. 10:45

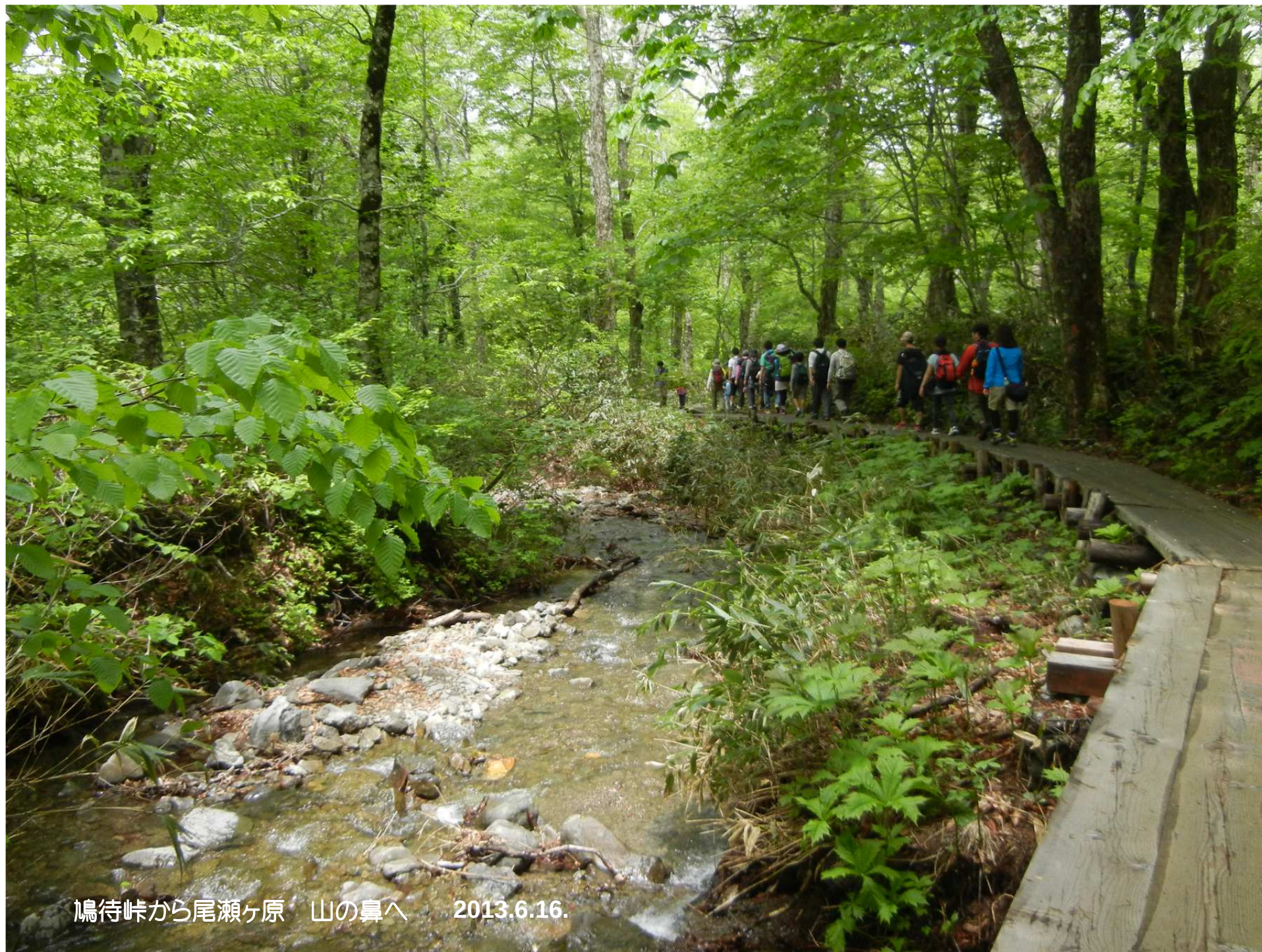
予想通り駐車場には車・バスそしてツアー客でごったがえしている。木道の登山道も大変……

初夏 尾瀬は一番の観光シーズン 久しぶりに見るごったがえした登山口





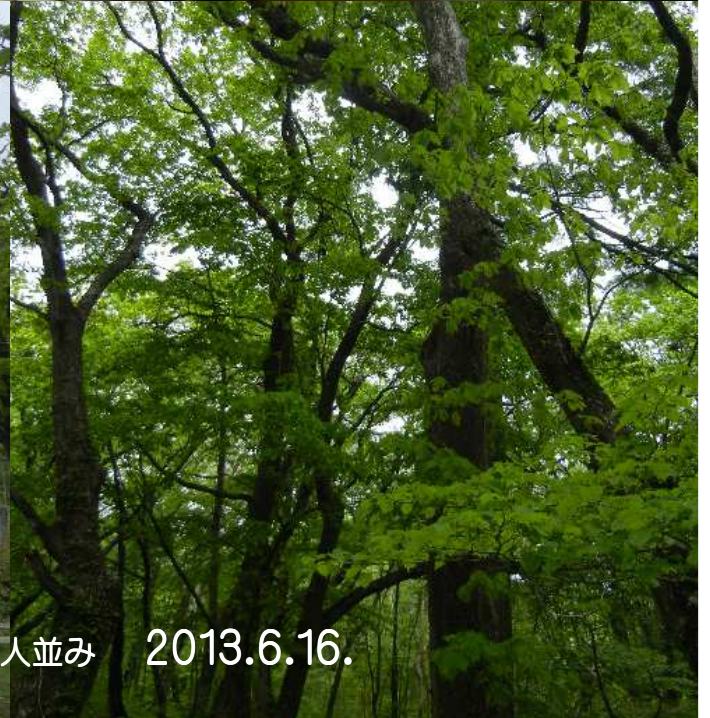
行列が続く鳩待峠から尾瀬ヶ原 山の鼻への木道 傍らにシラネアオイの花 2013.6.16.



鳩待峠から尾瀬ヶ原 山の鼻へ 2013.6.16.



木道からは 樹木の間から雪が残る至仏山が見えてくるとまもなく山の鼻

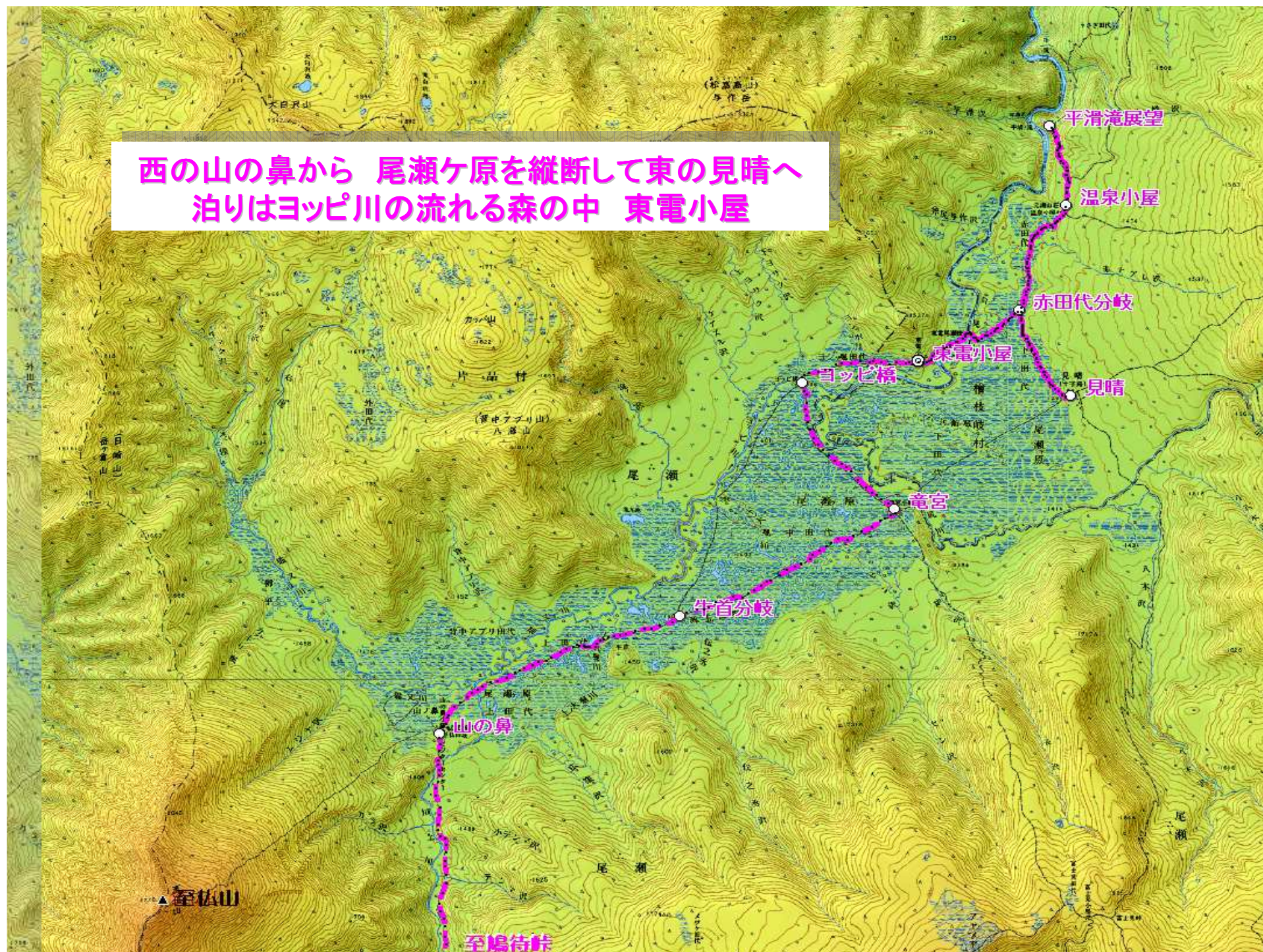


11:28 尾瀬ヶ原の西端 山の鼻 すごい人並み 2013.6.16.



尾瀬ヶ原の西端 山の鼻 2013.6.16.

西の山の鼻から 尾瀬ヶ原を縦断して東の見晴へ
泊りはヨッピー川の流れる森の中 東電小屋





西の至仏山麓《山の鼻》から 東の燧ヶ岳山麓《見晴》へ
11:30 尾瀬ヶ原の真ん中を縦断する木道を行く 2013.6.16.

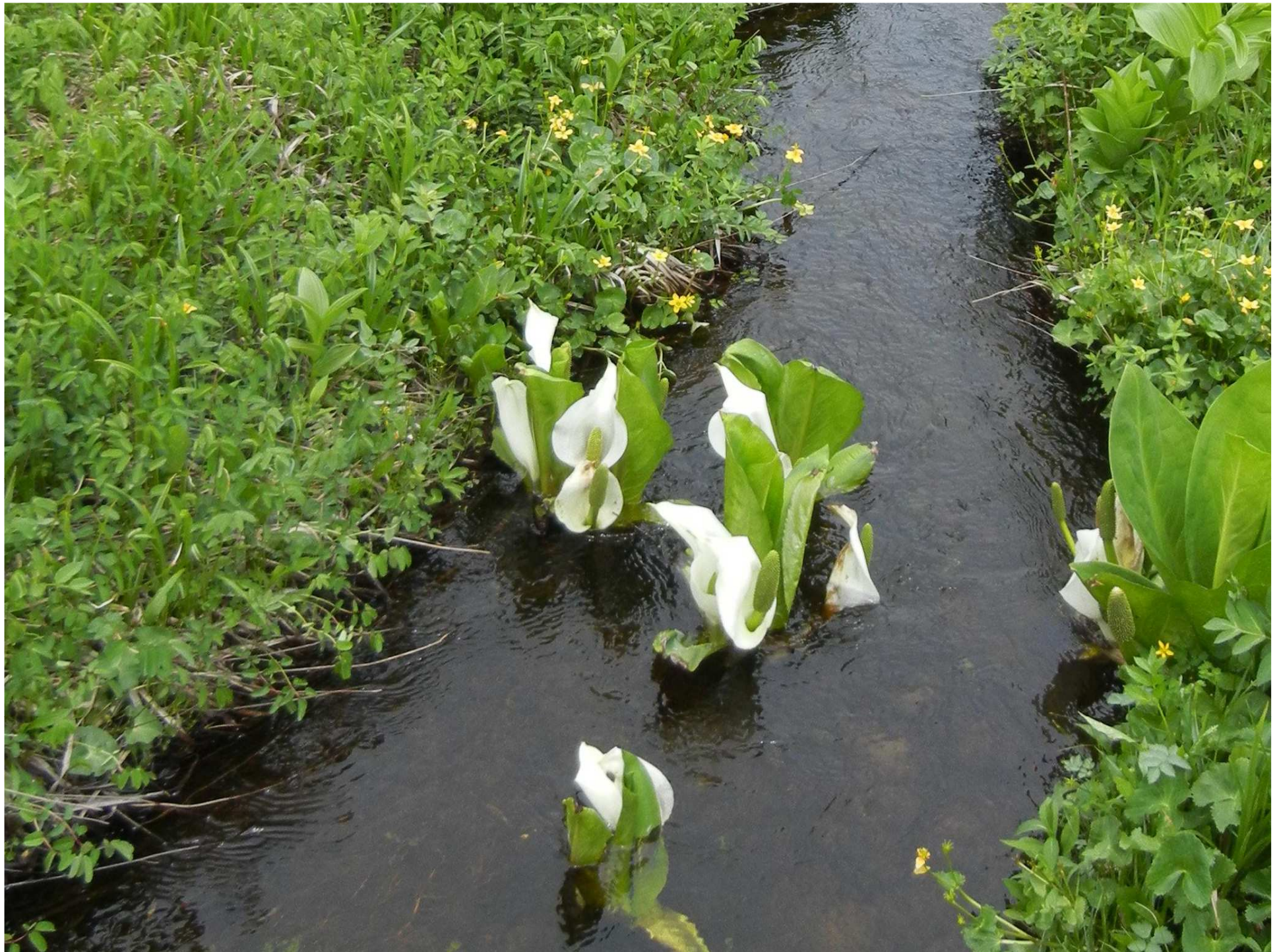


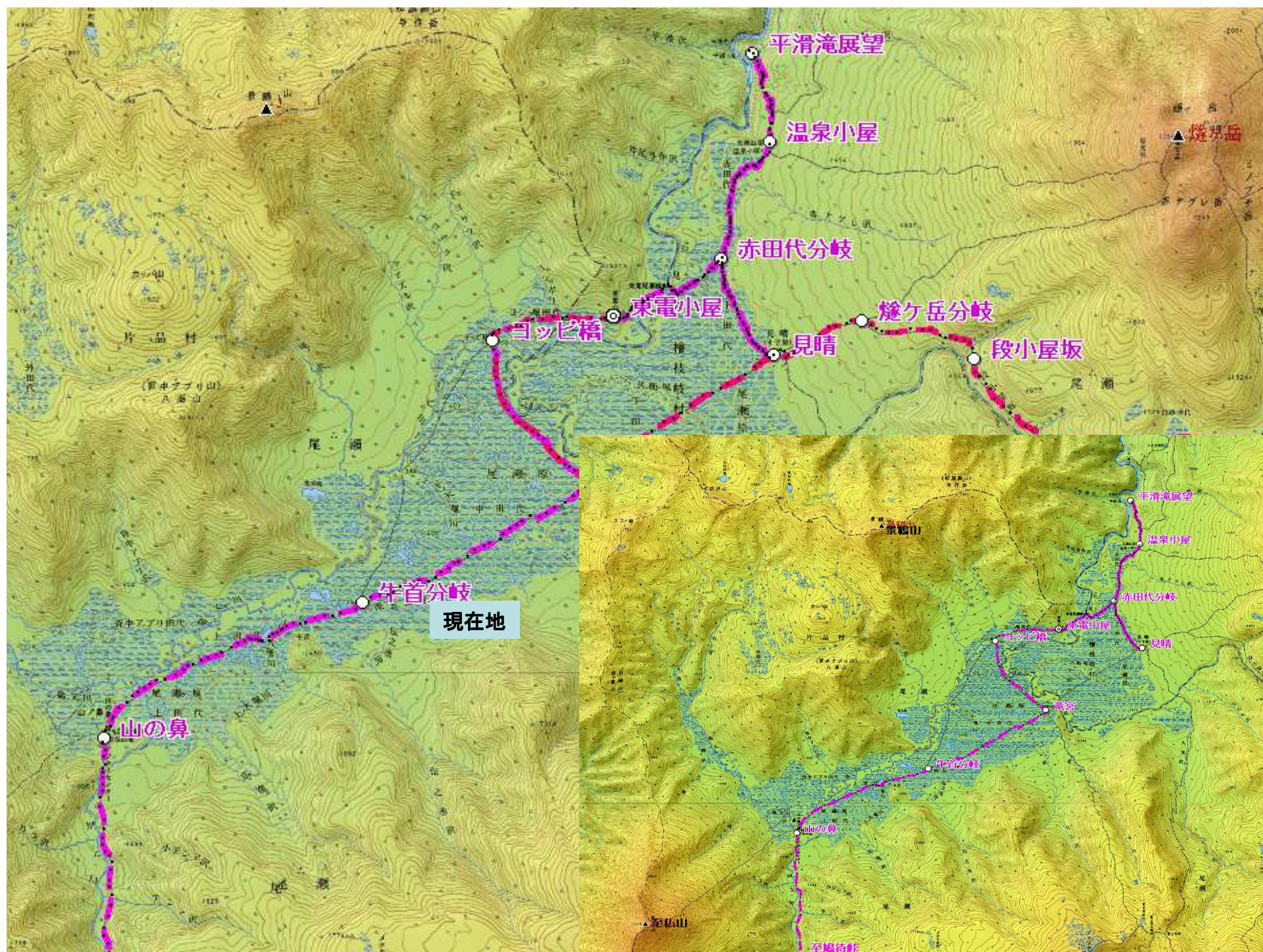
尾瀬ヶ原に入ってすぐ 木道両側の湿原に水芭蕉 山の鼻 2013.6.16.

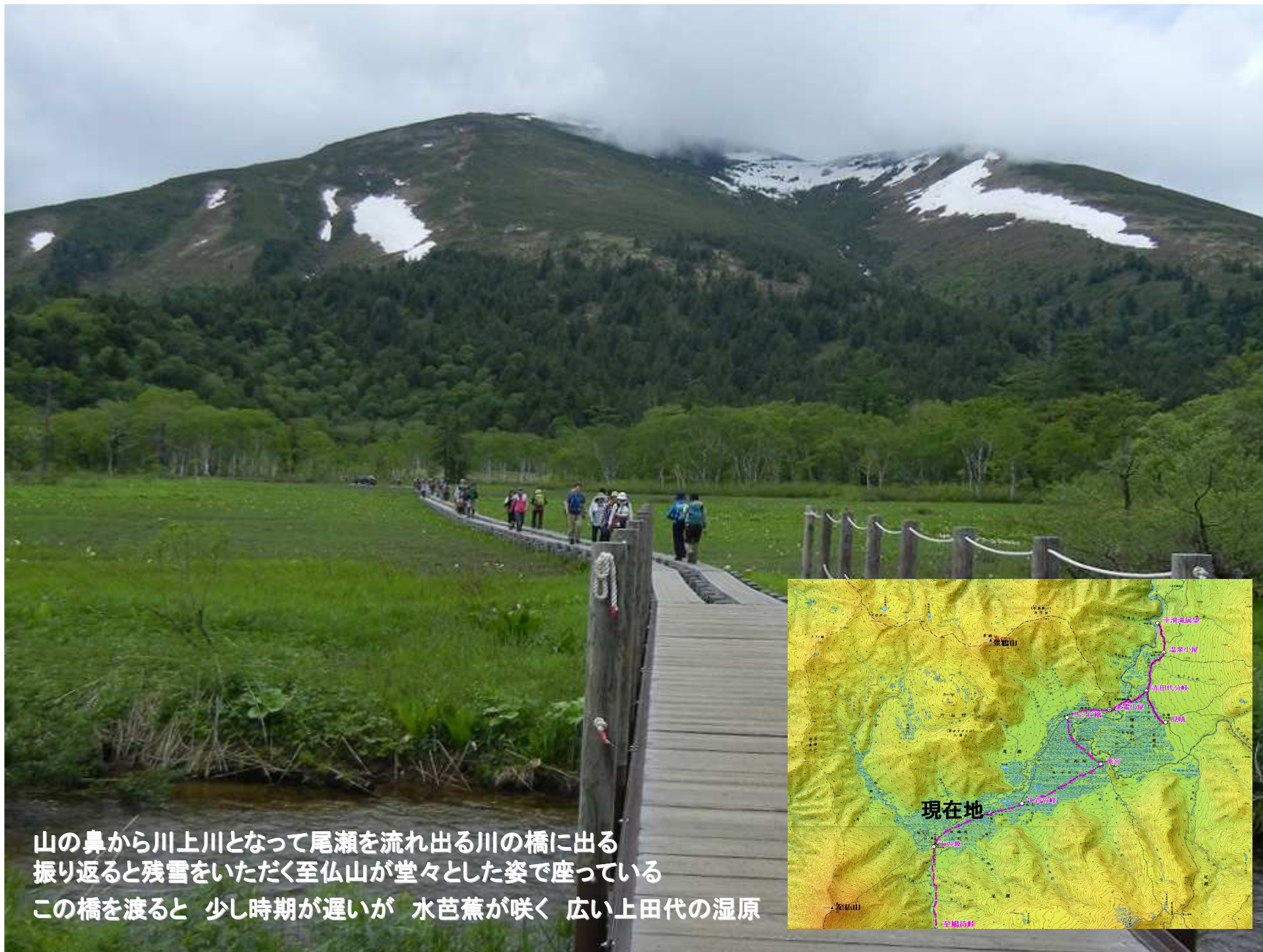
A wide-angle photograph of a group of people walking along a wooden boardwalk that curves through a lush green wetland. In the background, a large mountain peak is partially obscured by thick, white clouds. The sky is filled with soft, grey clouds. The people are dressed in casual outdoor attire, and some are carrying backpacks. The overall scene is peaceful and scenic.

尾瀬ヶ原に入っすぐ 木道両側の湿原に水芭蕉 山の鼻 2013.6.16.

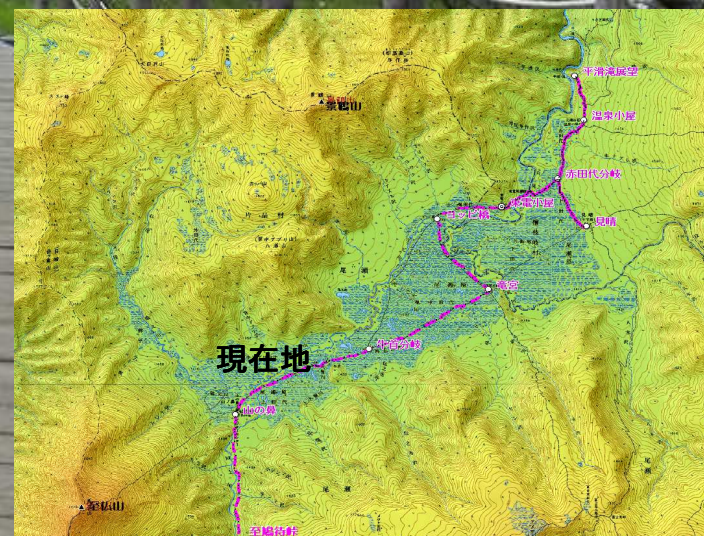
木道は尾瀬を訪れたツアーの人たちが行列で一杯 尾瀬ガイドを先頭に胸や袖に"trapics" "ソニリズム" JTB旅物語"などのワッペンをつけた一団が湿原を行列をなしてゆく スピードが合わないの で 右に左に 木道を渡りながら追い越して ゆったりと歩きながら景色を楽しめる位置取りを詩ながら歩く







山の鼻から川上川となって尾瀬の流れ出る川の橋に出る
振り返ると残雪をいただく至仏山が堂々とした姿で座っている
この橋を渡ると 少し時期が遅いが 水芭蕉が咲く 広い上田代の湿原





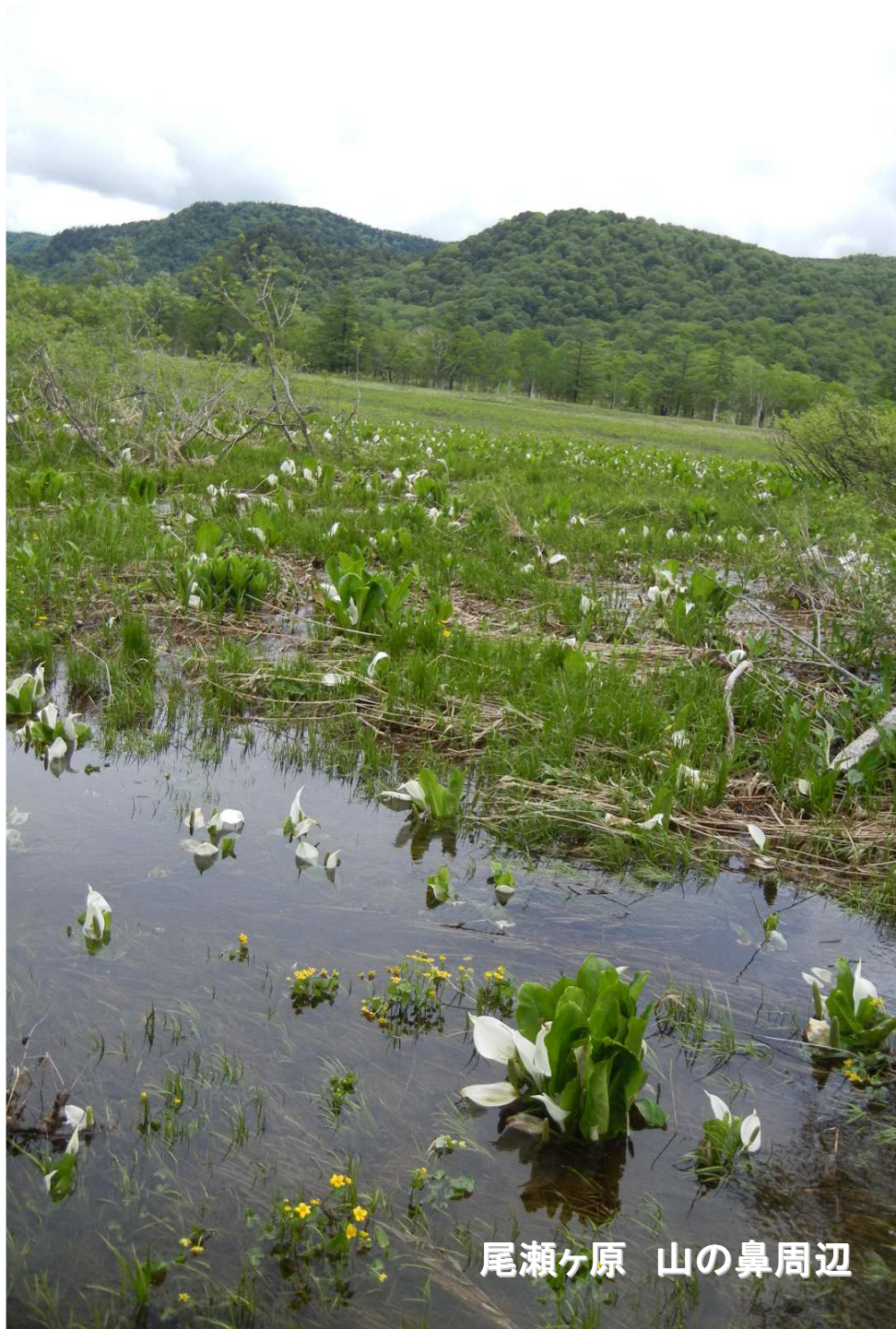
山の鼻から川上川となって尾瀬を流れ出る川の橋から 尾瀬ヶ原の西端 至仏山と山の鼻



もう盛りは越えましたが 水芭蕉が 川沿いや湿原に咲いてしました
尾瀬ヶ原 山の鼻周辺で 2013.6.16.



尾瀬ヶ原 山の鼻周辺 水芭蕉の群生地 2013.6.16.



尾瀬ヶ原 山の鼻周辺



水芭蕉の群生地で 2013.6.16.



橋を渡ると正面の燧ヶ岳まで 池塘・湿原が広がる広大な尾瀬ヶ原の中をまっすぐ木道が伸びている

尾瀬ヶ原 上田代 2013.6.16.



11:50 尾瀬ヶ原 上田代 2013.6.16.





尾瀬ヶ原 上田代 2013.6.16.



タテヤマリンドウ



ヒメシャクナゲ



レンゲツツジ



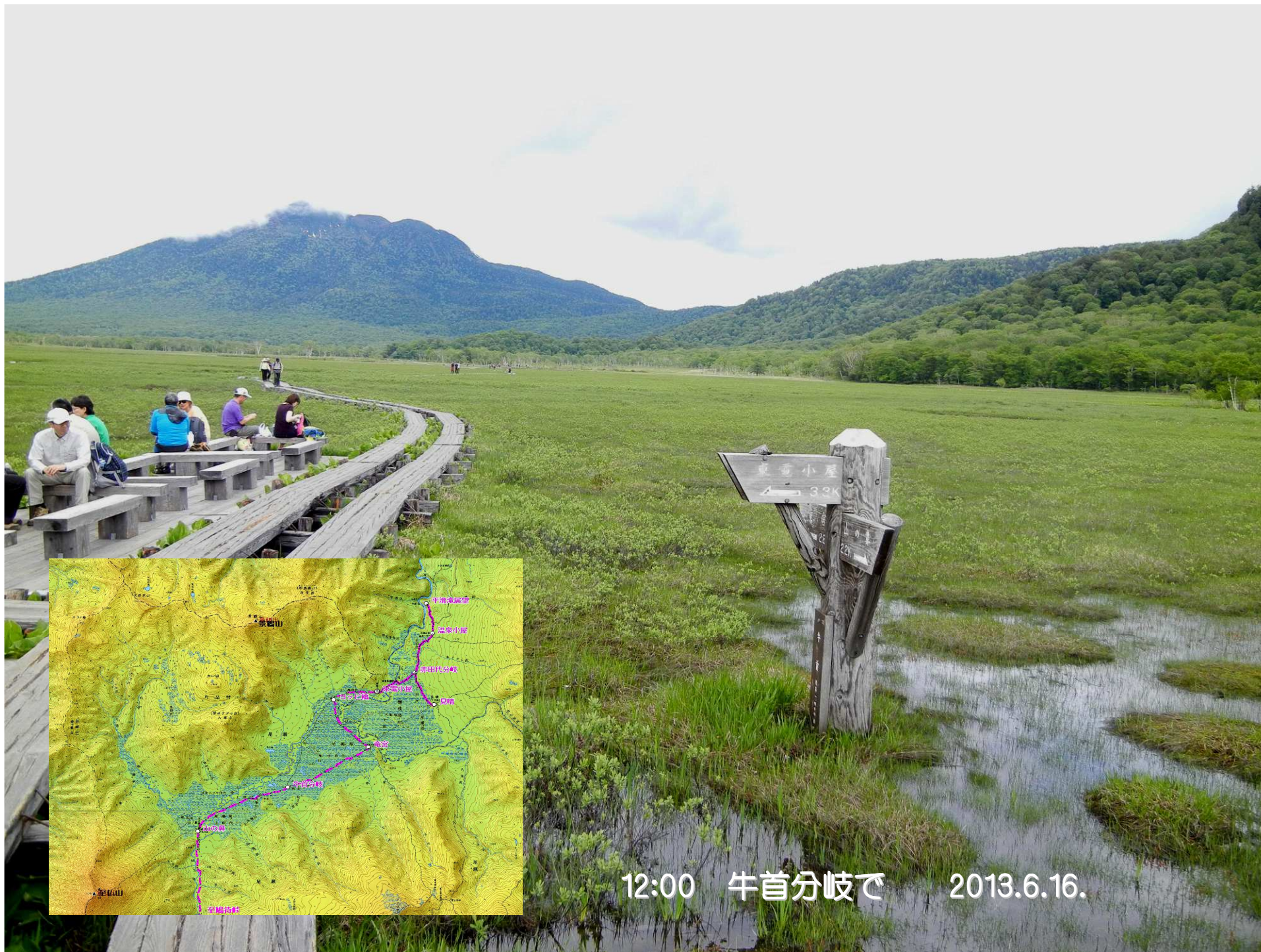
正面の燧ヶ岳に向かって 尾瀬ヶ原 上田代を行く 2013.6.16.



尾瀬ヶ原 上田代より 振り返って 残雪の至仏山を眺める 2013.6.16.



東から 山鼻へ向かう人の列 尾瀬ヶ原 上田代で 2013.6.16.



12:00 牛首分岐で 2013.6.16.



ヨッピー川が流れる尾瀬ヶ原の西側 景鶴山が中央に見える山裾 2013.6.16.



左から尾瀬ヶ原の中央へ頭を突き出す牛首 牛首分岐より 2013.6.16.



尾瀬ヶ原のほぼ中央 牛首分岐周辺 池塘に姿を映す燧ヶ岳 2013.6.16.



水芭蕉の有名な群生地 中田代 大堀川周辺 2013.6.16.



水芭蕉の有名な群生地 中田代 下ノ大堀川周辺 2013.6.16.

水芭蕉の盛りも終わり、一面大きく育った葉ばかりの群落になっていました



上ノ大堀川水芭蕉群生地で 2013.6.16. 有名な水芭蕉群生地も今は葉ばかり
でも2年前の大水で尾瀬ヶ原が水浸しで大量の砂が入って植生も大きく変わったと聞いて 心配していましたが、
ほぼ同じ水芭蕉群生地の景色が見られて安堵



水芭蕉は盛りを過ぎていましたが、レンゲツツジほか 今が盛りの花が数々
湿原歩きを楽しませてくれる



レンゲツツジ



タテヤマリンドウ



ヒメシャクナゲ



レンゲツツジ



水芭蕉



タテヤマリンボウ



ワタスゲ



オゼタイゲキ



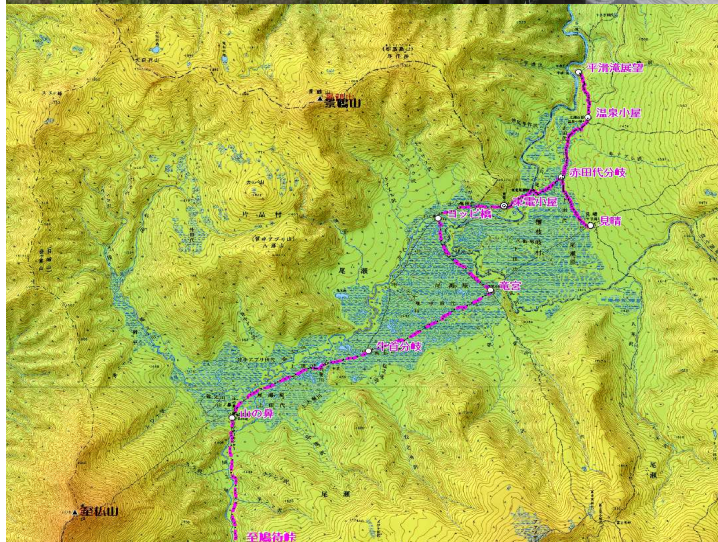
ヒメシャクナゲ



チングルマ







13:00 《竜宮》の伏流口 2013.6.16.
左右の川の合流点ですが、ここで川は地下にもぐり(伏流)、
木道の反対側一帯の湿原に噴出す「竜宮」の地名のいわれだと





《竜宮》の伏流口 2013.6.16.

左右の川の合流点ですが、ここで川は地下にもぐり、木道の反対側一帯の湿原に湧出す
竜宮の地名のいわれだと



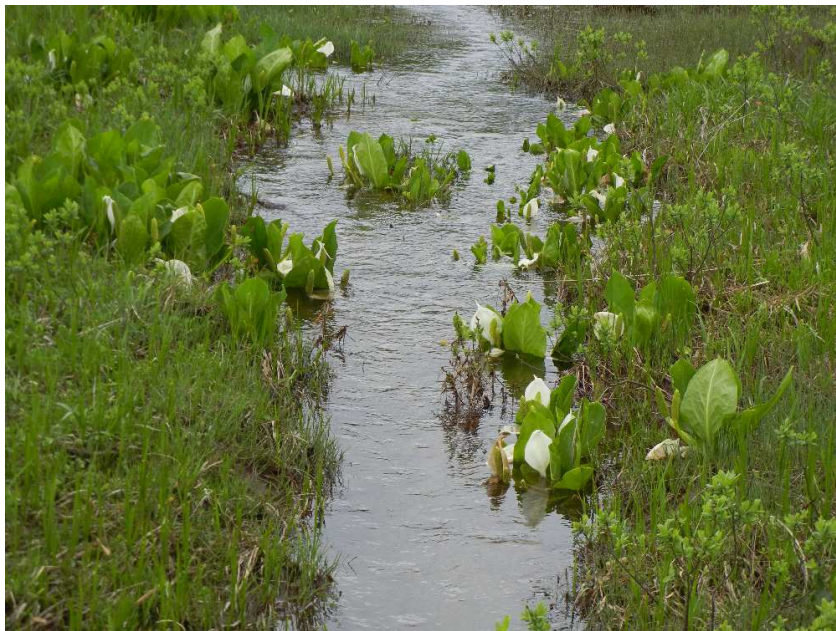
左右の川の合流点 《竜宮》の吸込み口

2013.6.16.



《竜宮》木道の反対側の湧出口側 2013.6.16.
木道の北側で水が湧き出し、川となっている

中田代 竜宮周辺 の水芭蕉
2013.6.16.





竜宮十字路周辺 2013.6.15.





竜宮十字路周辺 2013.6.15.
向こうの林の中に建つ竜宮小屋が見える



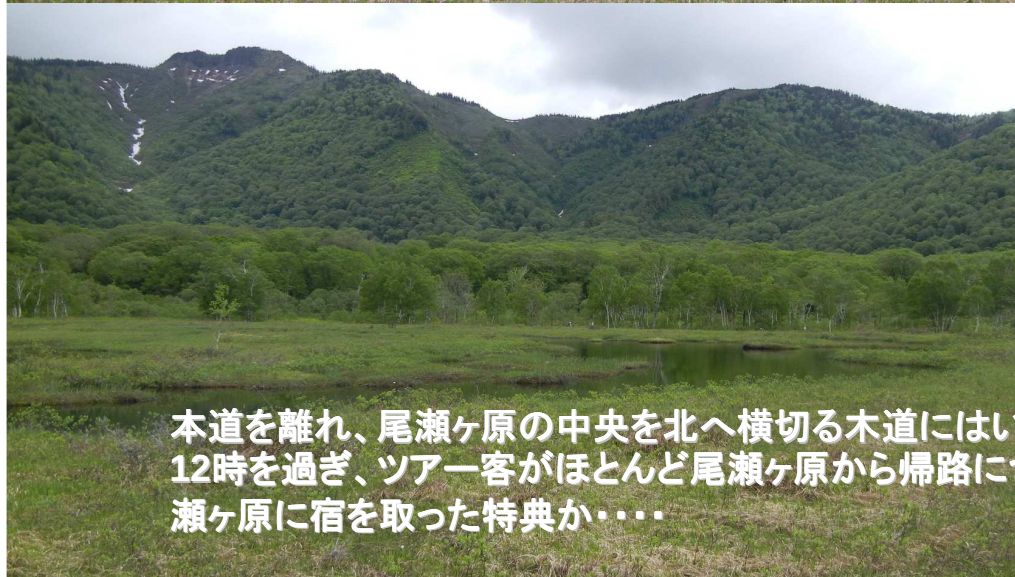
竜宮十字路からヨッピー川が流れる北側の縁の東電小屋へ 2013.6.15.







竜宮十字路周辺の湿原の草花が美しい 2013.6.15.



本道を離れ、尾瀬ヶ原の中央を北へ横切る木道にはいると静寂そのもの
12時を過ぎ、ツアー客がほとんど尾瀬ヶ原から帰路について 静かな尾瀬がゆっくり楽しめる 尾
瀬ヶ原に宿を取った特典か……





ヨッピー橋の袂で牛首からヨッピー川に沿って尾瀬ヶ原の北縁の道に合流する



13:44 ヨツピ橋 2013.6.16.

この周辺の森には熊が数多く生息。鐘や注意の案内板が木道脇に幾つも設置されている







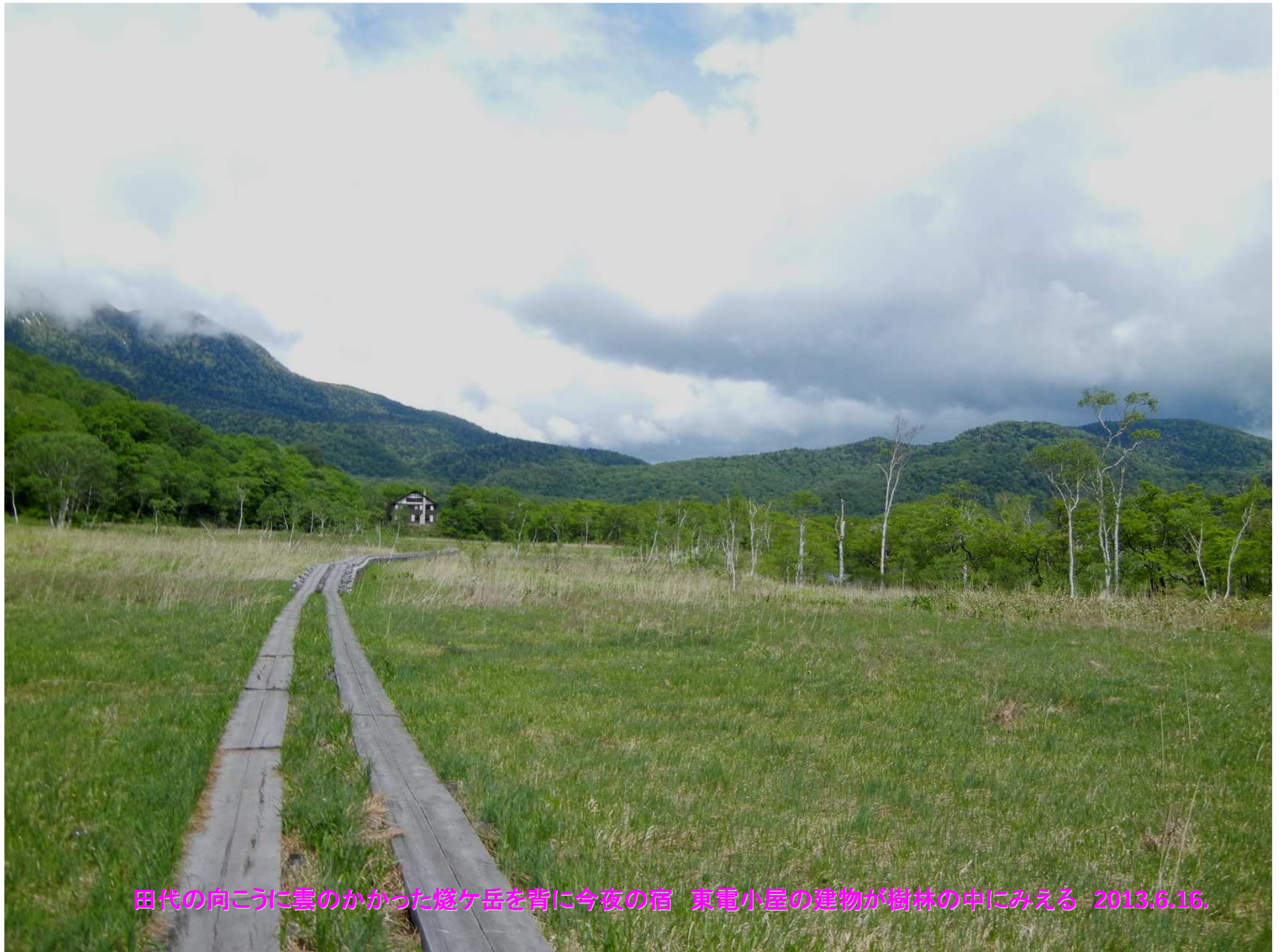


樹林を抜けるとヨシツ掘田代の湿原 ここにも水芭蕉が咲いていました 2013.6.16.





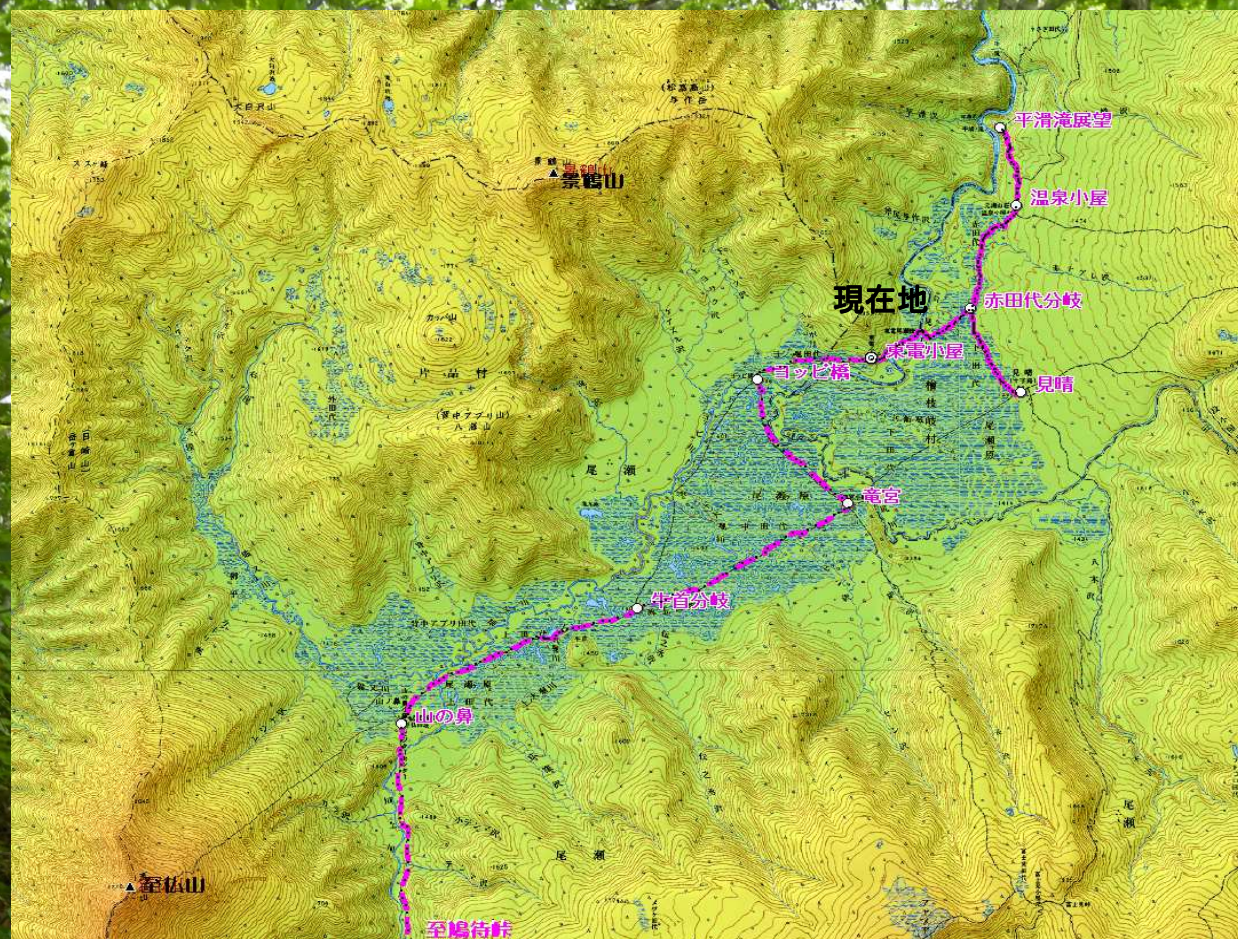
木道の所々高くなった橋になっている 人と熊が遭遇しないための熊の通り道とのこと 2013.6.16.



田代の向こうに雲のかかった焼ヶ岳を背に今夜の宿 東電小屋の建物が樹林の中にみえる 2013.6.16.



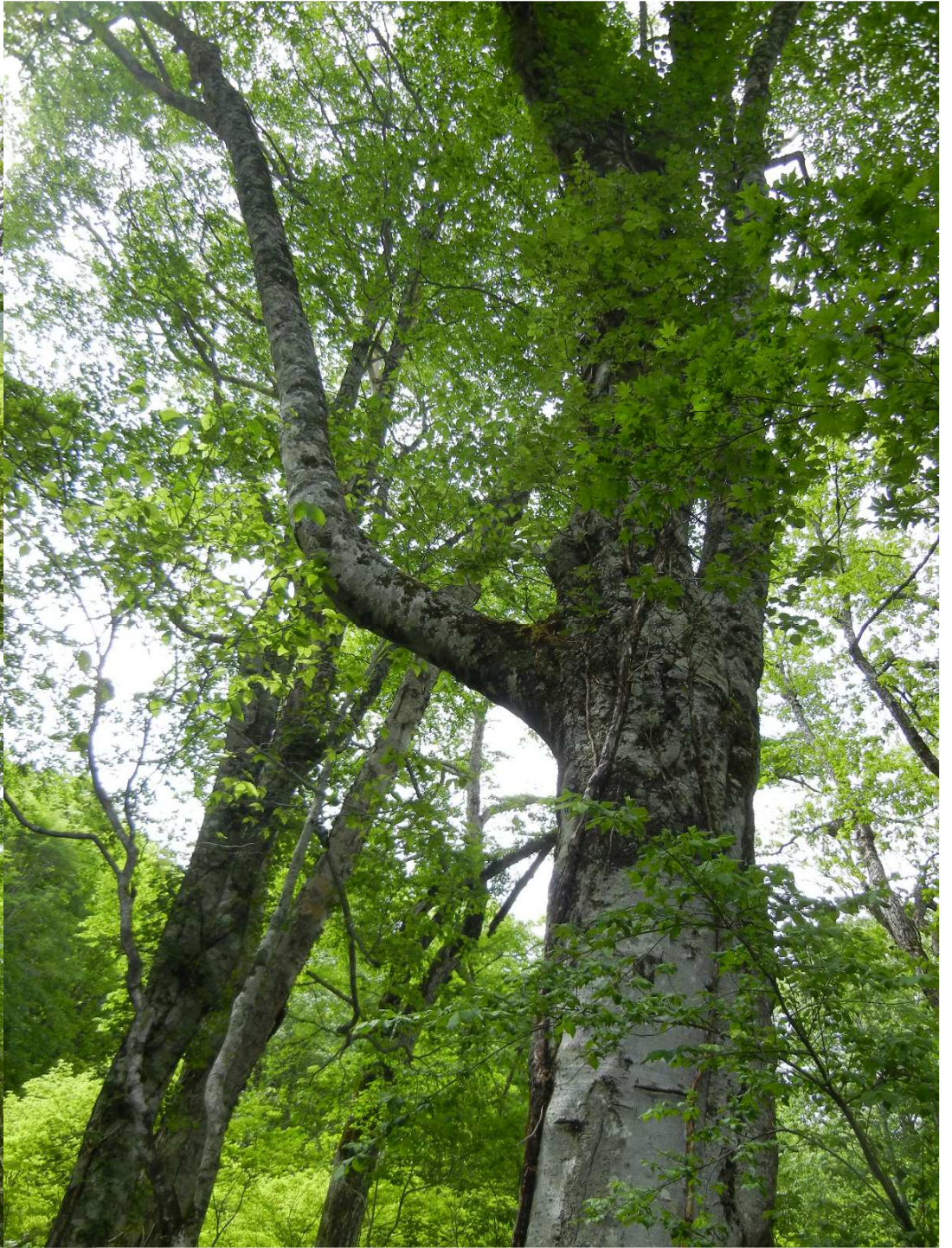
14:00 尾瀬ヶ原北縁 景鶴山の麓の樹林の中にある東電小屋 2013.6.16.



東電小屋の北側 ヨッピー川沿いの山腹には美しい広葉樹の森が広がっていましたまた、このヨッピー川は北の奥只見に流れ下って只見川となる
このヨッピー川が流れ下る燧ヶ岳と景鶴山系の間は深い谷あい、平滑ノ滝・三条ノと美しい滝がある。
まだ、時間があるので、荷物を小屋に預け、滝を見に行く。 2013.6.16.









14:10 樹林を抜けると燧ヶ岳が正面に見える田代 2013.6.16.





ヨッピー橋で只見川と名前を変えた只見川が流れ下るこの周辺は、新潟・福島・群馬 3県が入り混じる。新潟県と福島県の県境 東電尾瀬橋を渡ると福島県 また、樹林に入る



只見川を東電尾瀬橋で渡ると福島県 只見川が新潟/福島県の県境 また、樹林に入る



川向こうは東電小屋のある新潟県 手前は福島県



↓只見川 新潟 / 福島県境

背後に燧ヶ岳

(赤田代T分岐)

(尾瀬ヶ原 下田代)

↓見晴

温泉小屋・三条の滝へ← ↓ →見晴へ



赤田代 T分岐



尾瀬ヶ原の東の端 見晴



14:22 T分岐を右へ 見晴尾瀬ヶ原を右手に 見晴へ 2013.6.16.



下田代の向こうに 尾瀬ヶ原全体がみわたせ、 右端に残雪の至仏山も見える



正面に見晴の建物がみえてきた 2013.6.16.



山小屋が立ち並ぶ尾瀬ヶ原の東端《見晴》 この奥へ燧ヶ岳・尾瀬沼への道が続く



見晴から 西に広がる尾瀬ヶ原全体を眺める 2013.6.16.

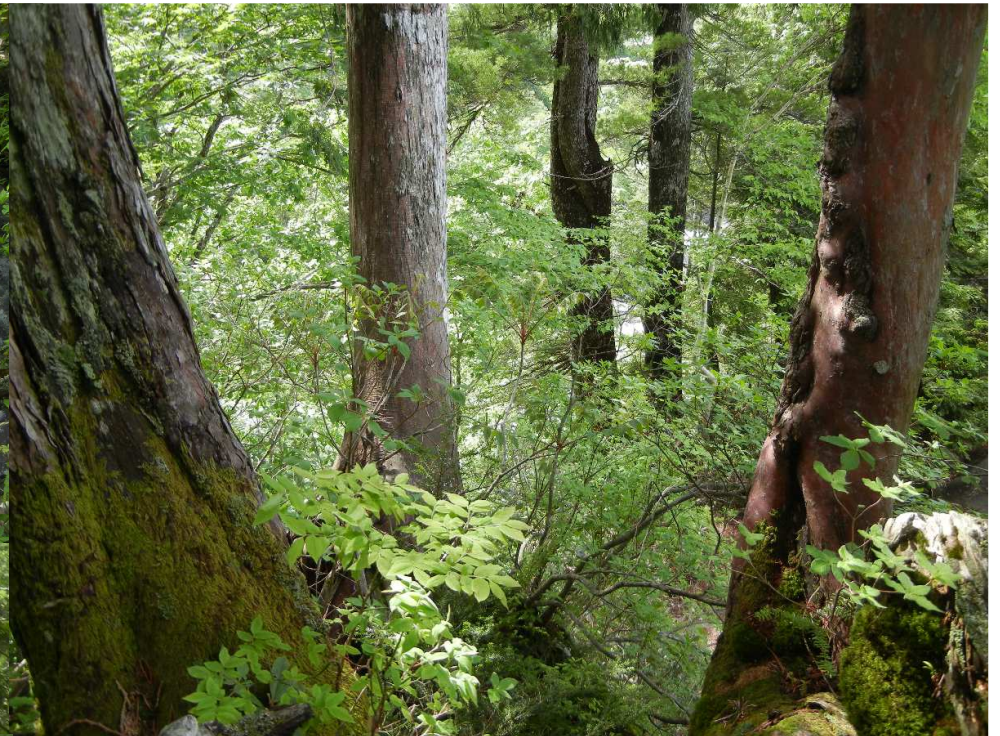


14:40 見晴から 西に広がる尾瀬ヶ原・至仏岳の眺望 2013.6.16.





温泉小屋の横を通り抜けると谷沿い山腹の厳しい崖道を下る 2013.6.16.



はるか下を轟音を響かせ、流れ下る川をちらちら眺めながら厳しい下りが続く



川幅一杯を 白濁した水が轟音を響かせ、流れ下る平滑ノ滝遠望 2013.6.16.



15:17 川幅一杯を 白濁した水が轟音を響かせ、流れ下る平滑ノ滝遠望 2013.6.16.

どこか川が見える位置を探してくだりましたが、帰りが大変なので ここでストップ 元来た道を引き返す。





帰路 温泉小屋周辺から眺めた赤田代 2013.6.16.

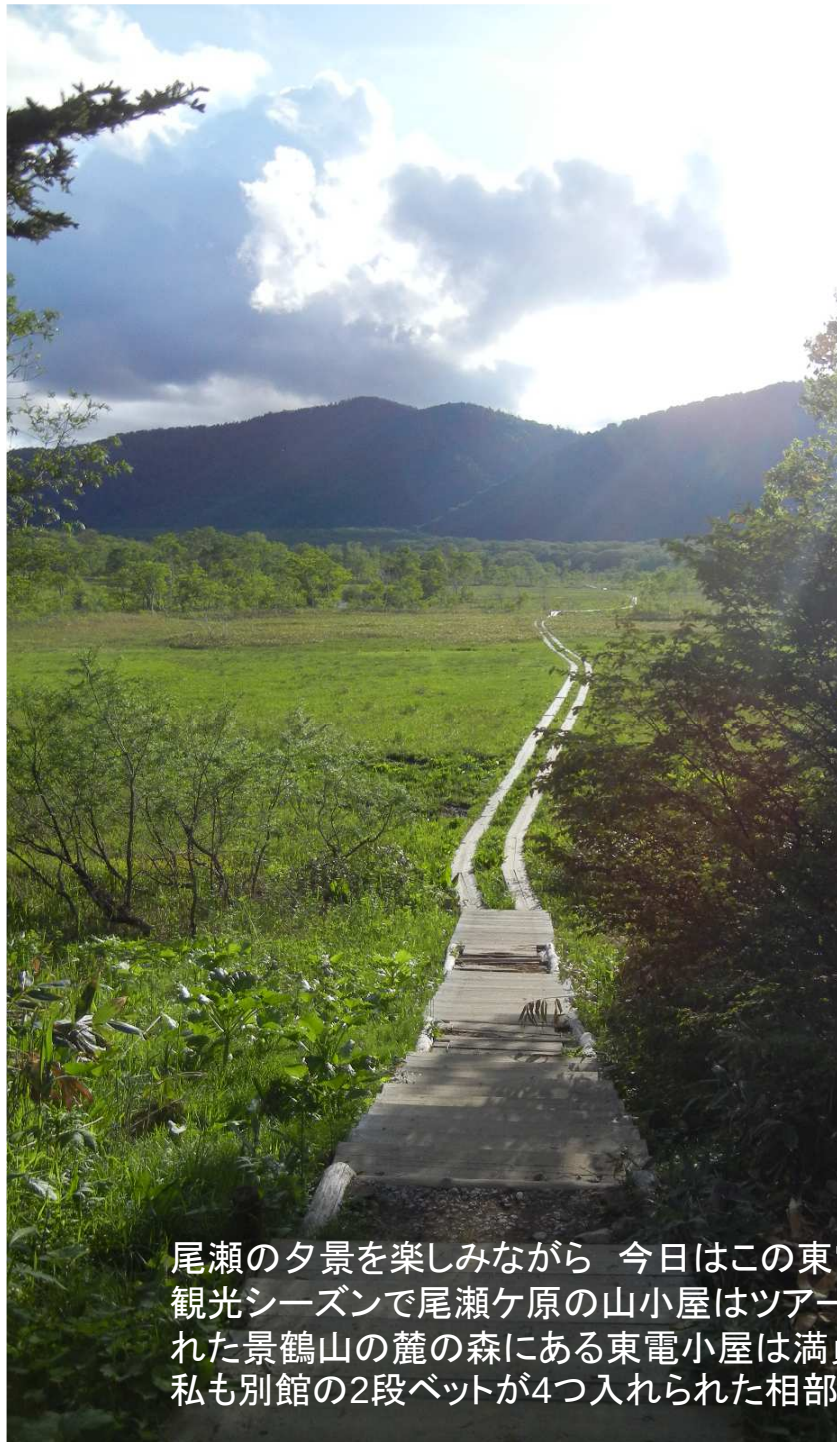


15:40 約2時間30分ほどの散策からもどって、小屋に入って風呂へ
小屋の前のベンチに座って ビールを飲みながら、尾瀬か原の夕景を楽しむ
一度やりたかった小屋泊りのゆったりとした夕方の楽しみ 実現です





小屋の前で 刻々変化して暮れゆく尾瀬の夕景を楽しむ



尾瀬の夕景を楽しみながら 今日はこの東電小屋で一泊
観光シーズンで尾瀬ヶ原の山小屋はツアー客で満杯でゴったがえしているが、尾瀬ヶ原の本道から外
れた景鶴山の麓の森にある東電小屋は満員ではあるが、静かなもの。
私も別館の2段ベットが4つ入れられた相部屋ながら 宿泊は和一人の個室が確保できました。



【尾瀬Walk 第2日目 2013.6.17.】

- ◆ 6月17日夜明け 朝霧の尾瀬ヶ原
- ◆ 6月17日 尾瀬沼・長蔵小屋から三平峠越えで大清水へ
東電小屋→見晴→沼尻→三平峠下⇔長蔵小屋→三平峠→大清水

6.17.夜明け 楽しみにしていた朝もやの尾瀬ヶ原の散策

朝モヤでかすむ尾瀬ヶ原の景色が見たくて、早朝 薄明かりがさすのを待ちかねて 尾瀬ヶ原の散策へ。散策から帰って、朝6時の朝食を済ませて出発することにした。

今日は神戸まで帰るので、時間的にはさほど余裕はないが、会津側へ降りなければ何とかなるだろうと。

6.17.朝 4:45 東電小屋の夜明け

今日も快晴 梅雨がうそのようなすばらしい快晴 燧ヶ岳の左肩の方から日が差し、尾瀬ヶ原には朝霧がたちこめ、日が差すと共に刻々とその表情を変えてゆきます。



6.17.朝 4:45 東電小屋の夜明け

今日も快晴 梅雨がうそのようなすばらしい快晴 燧ヶ岳の左肩の方から日が差し、
尾瀬ヶ原には朝霧がたちこめ、日が差すと共に刻々とその表情を変えてゆきます。



東電小屋の東ヨッピ川(只見川)沿いに広がる湿原にも朝霧が立ち込め、景鶴山を覆う雲も刻々と動いている
2013.6.17.早朝 東電小屋より









朝霧が随分薄くなってくると 湿原の表情がよく見えてくる 2013.6.17.
湿原の草の頭に夜露がついて白くなって 押し寄せてくる白い波のようになっている

霜がおりたのなら 原全体が白くなるのですが、 蜘蛛が草の間にかけた網に夜露がついて
それが白く光っているようだ。 早朝日が昇るまでの光景のようだ



ヨッピの川の川霧をも期待したのですが、川霧はありませんでした



湿原の草の頭を白くしているのは蜘蛛の網が原因か???

事実だとすると 人の入らぬ湿原には無数の蜘蛛がいるようだ





樹木の新芽にも水滴がいてこんな景色に





レンゲツツジの枝にこんな立派な網がかかっていました



夜露のついた湿原の草の葉にはこんなに沢山の水滴が……









5:45 尾瀬ヶ原の朝の景色 早朝の散策から戻って
朝日に小屋の影が湿原に映し出され、至仏山の頂上も見え出した
6時の朝食を済ませて 出発だ



◆ 6月17日 朝6時30分出発

尾瀬沼・長蔵小屋から 三平峠越で大清水へ帰る

東電小屋→見晴→沼尻→三平峠下⇄長蔵小屋→三平峠→大清水



6時30分 東電小屋出発 今日は尾瀬ヶ原から尾瀬沼 三平峠から大清水に下山して神戸に帰る

今日は 早朝の尾瀬ヶ原を散策しながら竜宮へ戻って そこから見晴→尾瀬沼へ出て、長蔵小屋から大清水へ下山する。
タイムリミットは大清水2時15分発上毛高原行のバスに乗ること。ひとつ前のバスにのれるかどうか・・・

一度 小屋に泊まって 夕方と朝の景色をゆったりと眺めたいとの希望が今回の東電小屋泊でかなえられて満足でした。
ツアーの人たちのコースから離れた東電小屋 シーズンとはいえ、落ち着いた静かな雰囲気だったのもラッキー。
朝食を終わって 6時30分小屋を出発。 なお、小屋の主人が須磨出身の方だったのにもびっくりした。



東電小屋の主人から、「朝モヤ見るのだったらヨツピ橋から竜宮へ尾瀬ヶ原の中央部横断が一番
また、尾瀬ヶ原では水芭蕉の時期はもう過ぎているが、尾瀬沼は今がいい」と教えてもらって、
へ出て直接見晴へは行かず、早朝の尾瀬ヶ原を散策しながら 西へ出て、ヨツピ橋から尾瀬ヶ原の中央を竜宮へ横切って
そこから見晴→尾瀬沼へ出て、長蔵小屋から大清水へ下山する。

東



ヨッピー川越しの至仏山にかかっていた雲もすっかり取れて 今日は素晴らしい快晴だ 20013.6.17.



ヨッピ吊り橋を渡って尾瀬ヶ原に出ると東の燃ヶ岳・西の至仏山共に雲ひとつなく聳えていました



尾瀬ヶ原 中田代の池塘に姿を映す至仏山 2013.6.17.



尾瀬ヶ原 中田代の池塘に姿を映す至仏山 2013.6.17.



ここにも蜘蛛が立派な網をかけていました



ヨッピ吊り橋→竜宮 尾瀬ヶ原中央の景色 2013.6.17.



6:50 まだ朝早くで 誰も歩いていない竜宮十字路で 2013.6.17.



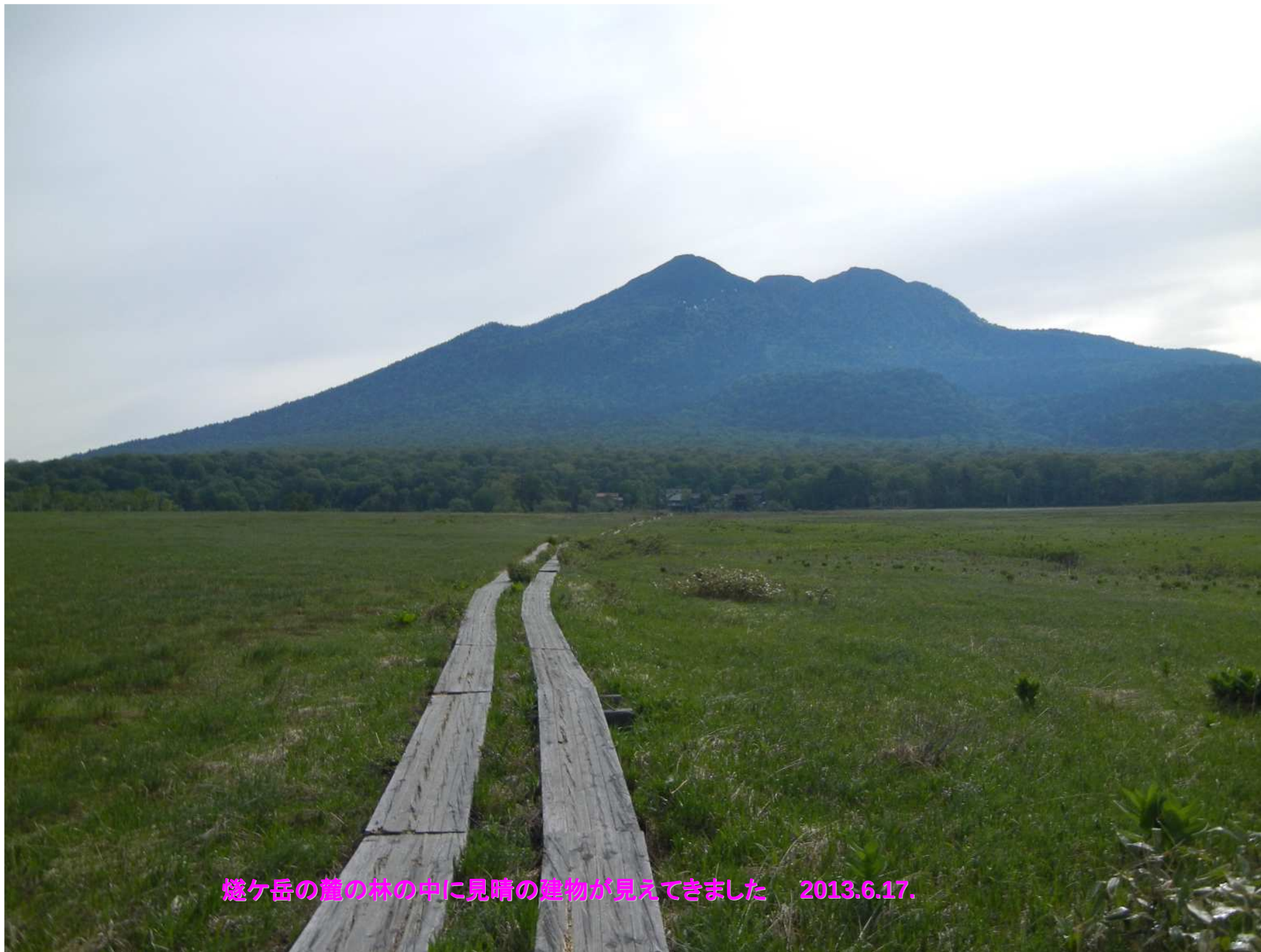
東の見晴へ向かうとすぐ。尾瀬沼から流れ下ってきた沼尻川が竜宮小屋のある森を流れる 20130.6.17.



逆光で燧ヶ岳が翳っているが、雲ひとつない快晴



2013.6.17.竜宮→見晴で



燧ヶ岳の麓の林の中に見晴の建物が見えてきました 2013.6.17.



昨日小屋の主人から尾瀬ヶ原の生物の話を聞き、気になっていた尾瀬池塘のナガバノモウセンゴケ



7:17 見晴に尾瀬沼にある長蔵小屋関連の第二長蔵小屋がありました 2013.6.17.



7:17 尾瀬ヶ原と尾瀬沼を結ぶメインコース
見晴から尾瀬沼・長蔵小屋へ

尾瀬沼から尾瀬ヶ原へ流れ出てくる沼尻川
その谷を遡って尾瀬沼へ

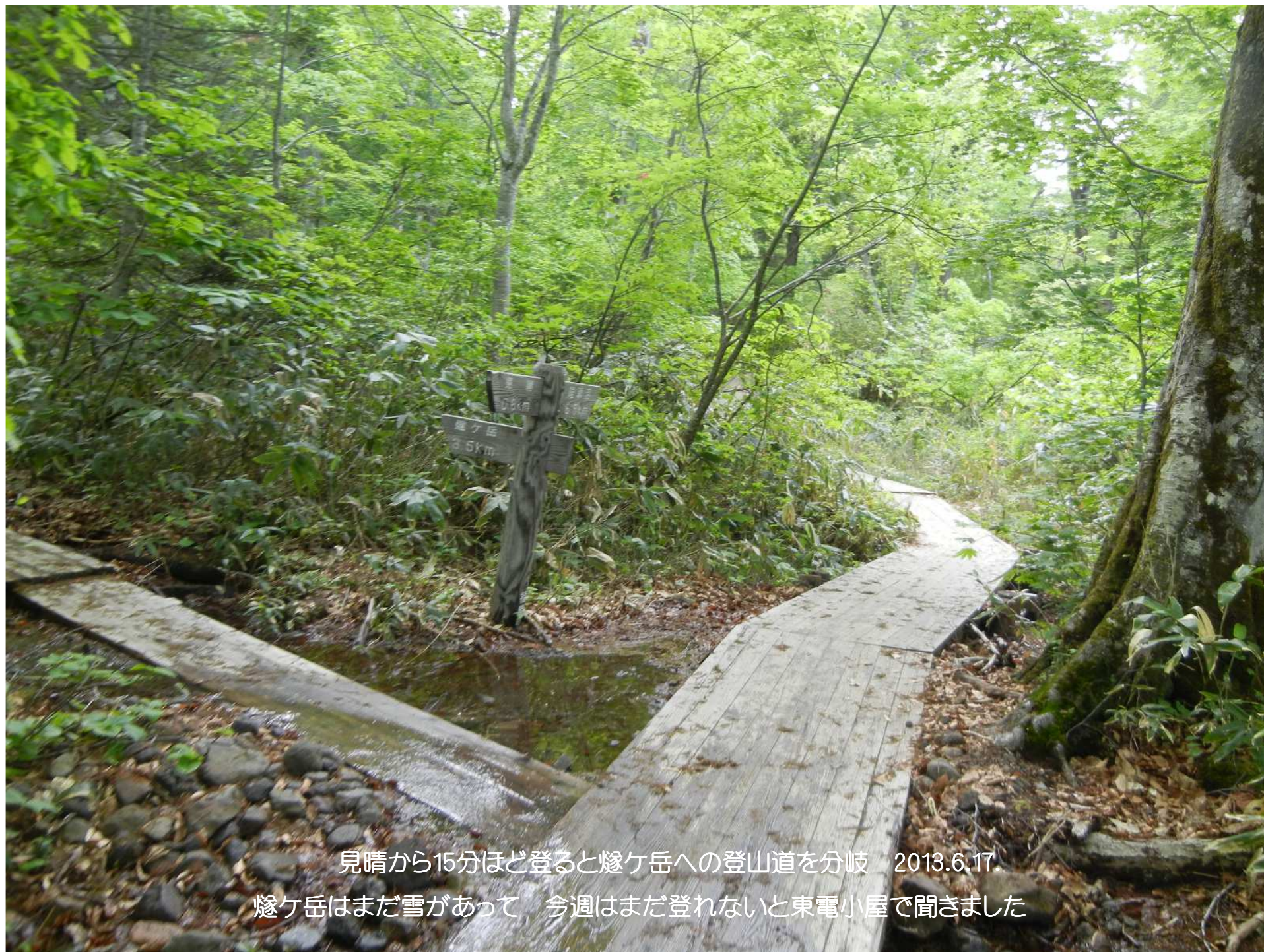


見晴からは 視界の開けぬ照葉樹林が美しい森の中
燧ヶ岳の山裾を登って 沼尻川が流れ下ってくる谷間 段小屋坂を上って、
白砂乗越から尾瀬沼の沼尻へ出る
きつくはないが、約2時間の登りが続く



見晴の燧ヶ岳・尾瀬沼への登り口 2013.6.17.
振り返ると樹木の間から下に見晴の小屋が見える

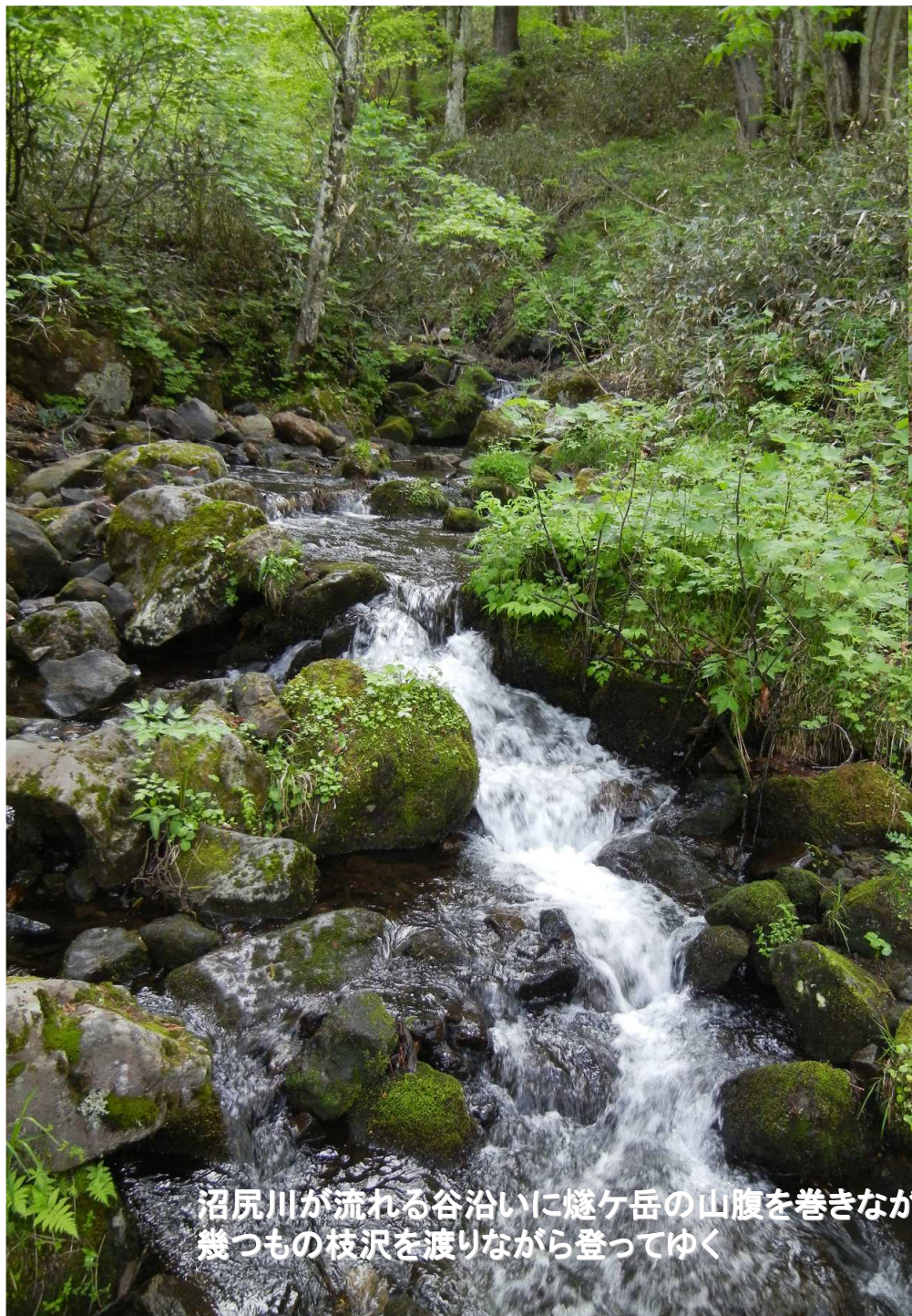




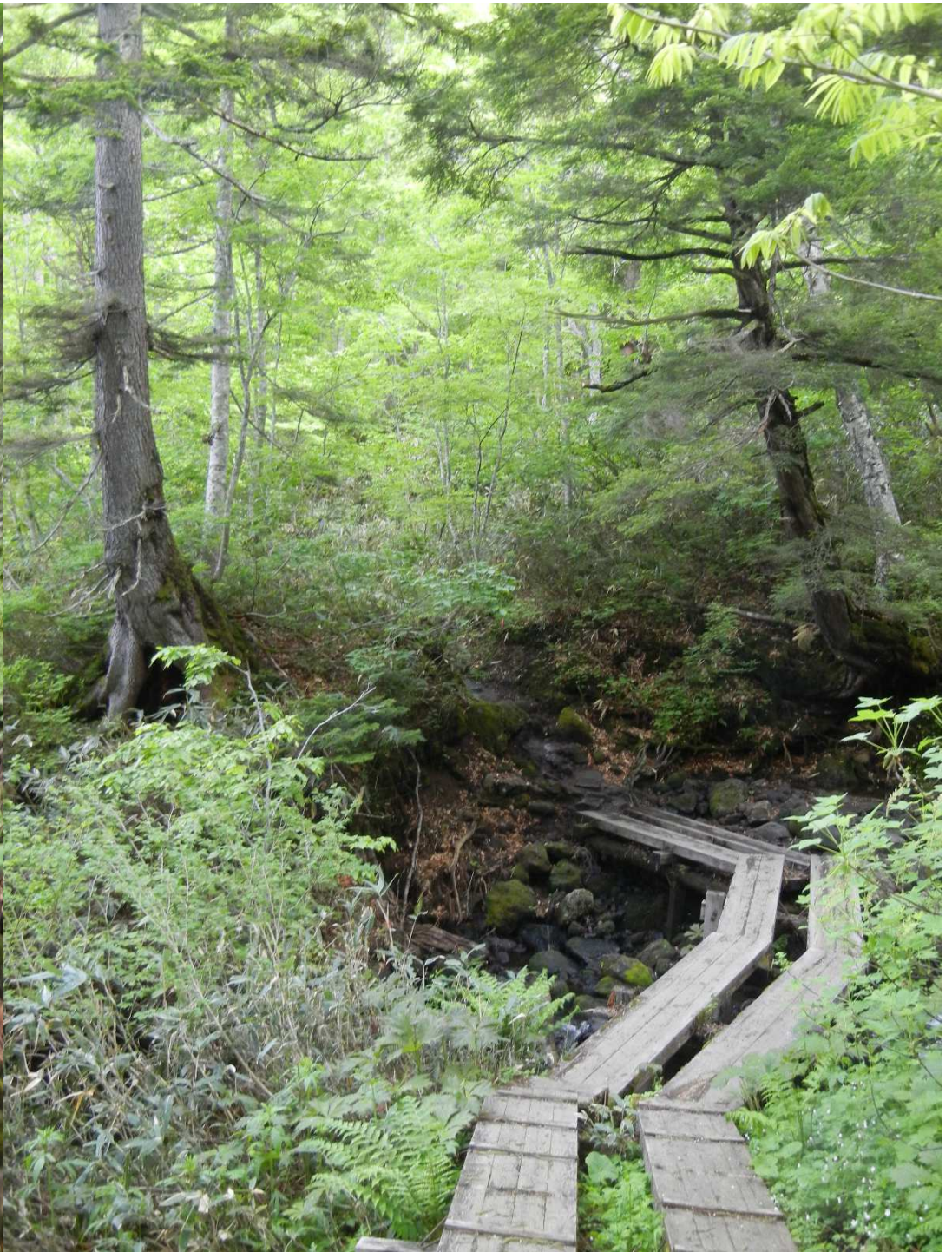
見晴から15分ほど登ると燧ヶ岳への登山道を分岐 2013.6.17.
燧ヶ岳はまだ雪があって、今週はまだ登れないと東電小屋で聞きました



視界の開けぬ長い段小屋坂の始まりであるが、
美しいブナやいろいろ花が咲いていて、気持ちの良い登りである



沼尻川が流れる谷沿いに燧ヶ岳の山腹を巻きながら登ってゆく道なので、
幾つもの枝沢を渡りながら登ってゆく





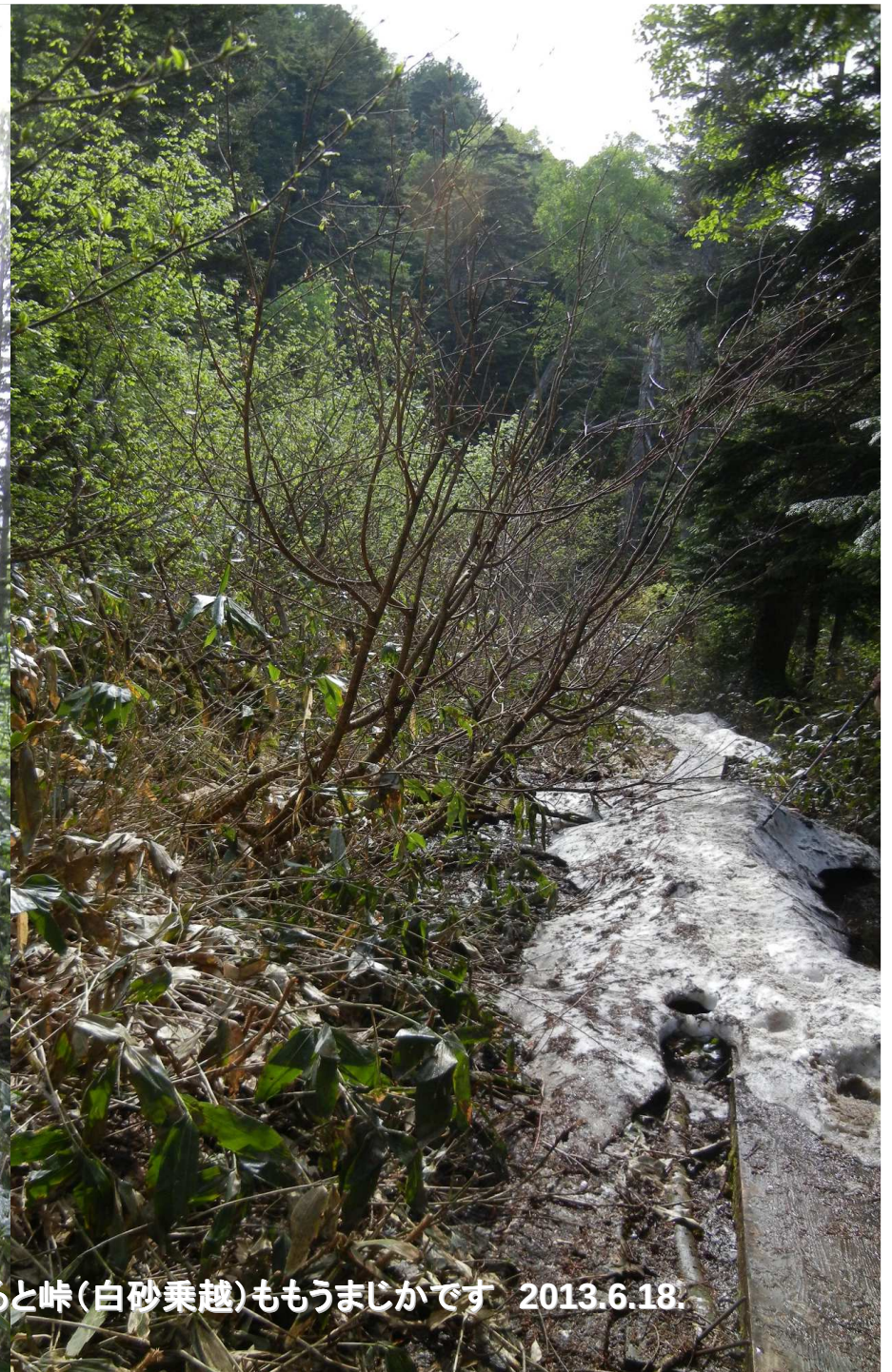












空が明るくなり、道がぬかるみ、木道に残雪がでてくると峠(白砂乗越)もうまじかです 2013.6.18.



谷筋全体が見えるようになり、沼尻川の流れが見えてきました





8:27 やっと白砂峠 この峠をくだると尾瀬沼 2013.6.17



残雪の残る白砂峠を越える 2013.6.17.



エンレイソウ



サンカヨウ



峠道脇の湿地には名前の知らない花が幾つも 2013.6.17.



8:36 急な峠道を降りると白砂田代 2013.6.17.



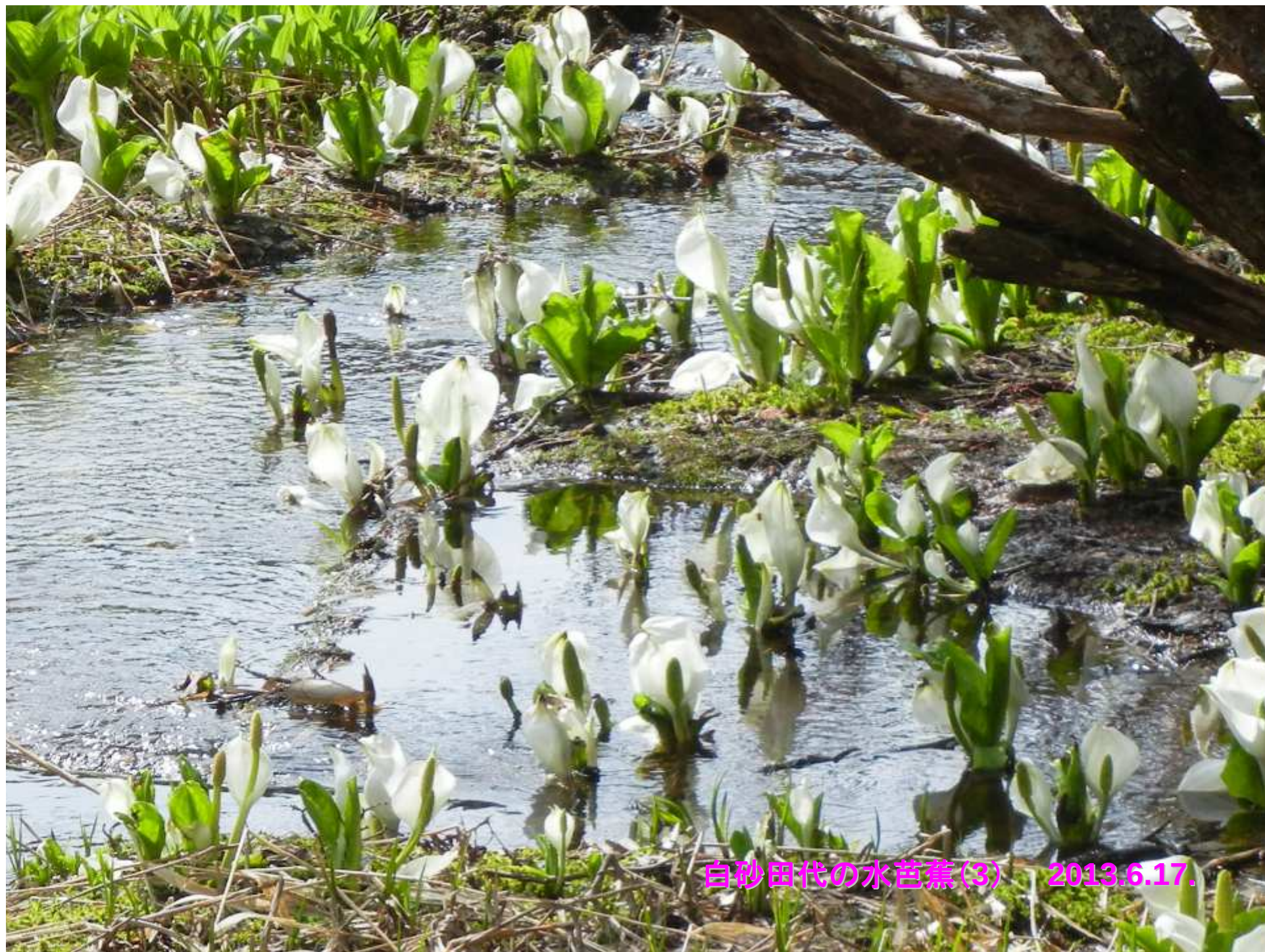
白砂田代の山際の湿地には水芭蕉がきれいに咲いていました 2013.6.17.



白砂田代の水芭蕉(1) 2013.6.17.



白砂田代の水芭蕉(2) 2013.6.17.



白砂田代の水芭蕉(3) 2013.6.17.



白砂田代の北側には燧ヶ岳の頂上が頭をのぞかせ、
取り囲む森の緑が水芭蕉以上に素晴らしい 2013.6.17. 白砂田代で



白砂田代で 2013.6.17.



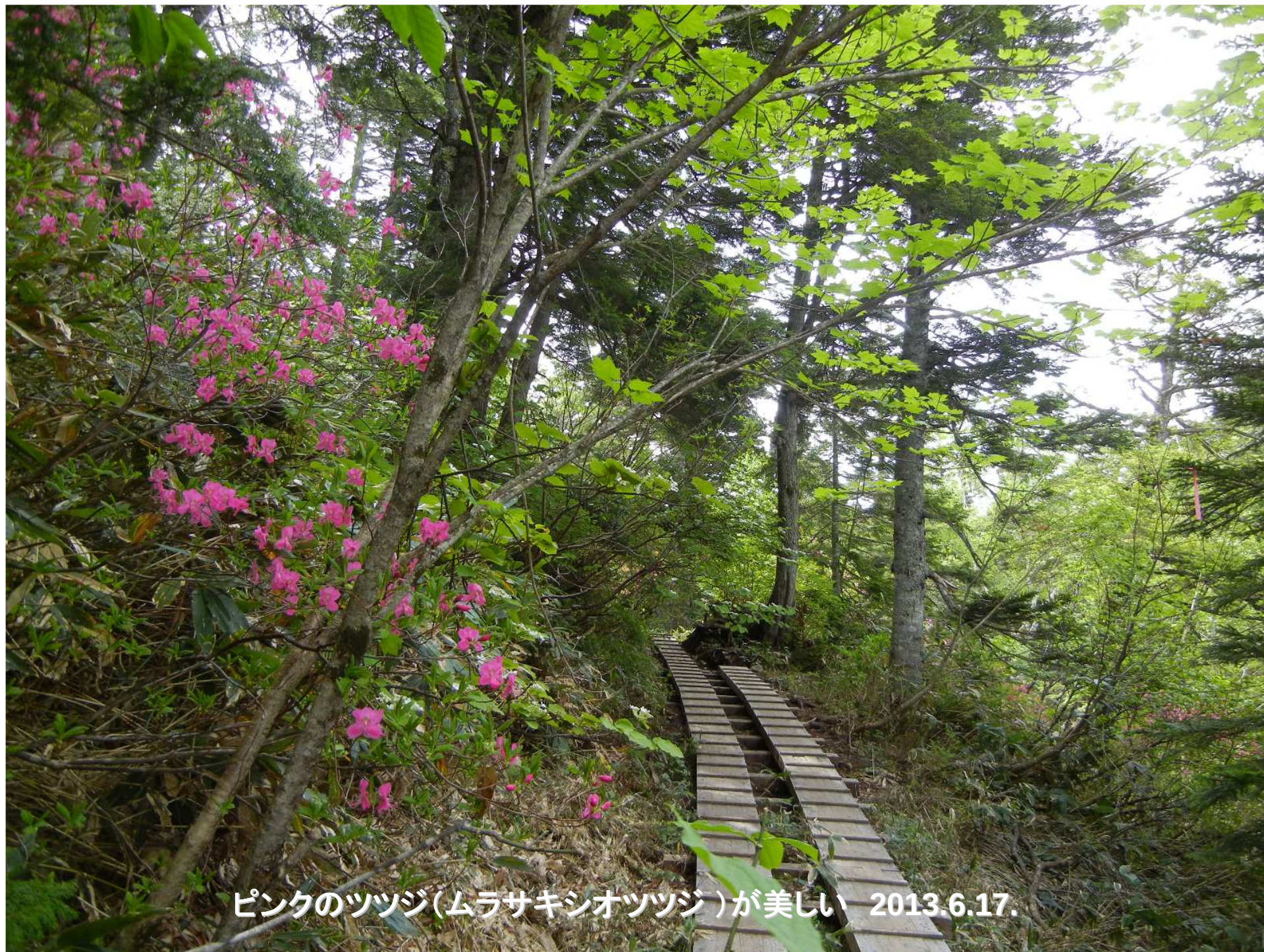
白砂田代で 2013.6.17.



白砂田代で 2013.6.17.



白砂田代を抜けると又森の中 この周辺 ピンクのツツジ(ムラサキシオツツジ)が美しい 2013.6.17.



ピンクのツツジ(ムラサキシオツツジ)が美しい 2013.6.17.



8:52 森を抜けるとぱっと視界が開け、尾瀬沼の北西岸 沼尻平 2013.6.17.

尾瀬沼 沼尻平 概略 (写真合成)



東側から眺めた沼尻平 左に尾瀬沼の岸にある休憩所 右の木道の先が白砂峠



正面南 尾瀬沼



東側



北側 燧ヶ岳



沼尻から眺める尾瀬沼 2013.6.17.



尾瀬沼 沼尻休憩所 2013.6.17.



沼尻から眺める燧ヶ岳登山道入口 2013.6.17.

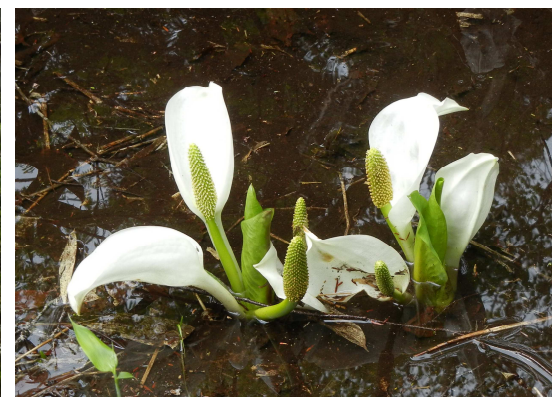
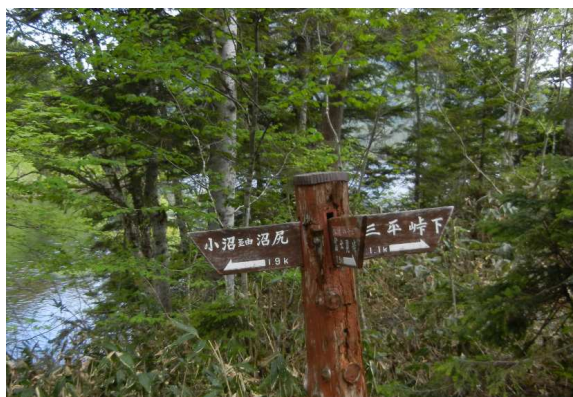
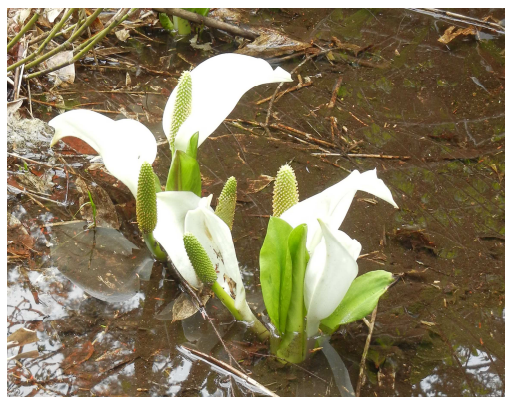
沼尻から対岸の大江湿原・長蔵小屋や三平峠へは東西どちらからも湖岸に沿って道がある。
今回は通ったことがない西側湖岸から長蔵小屋を目指した。





尾瀬沼西岸木道で 2013.6.17.





沼尻の対岸 富士見峠への分岐周辺から眺めた燧ヶ岳 2013.6.17.



三平峠下周辺から眺めた燃ヶ岳 2013.6.17.



9:53 三平峠下 2013.6.17.
ここから南へ登れば三平峠ですが、長蔵小屋を見たくて、
そのまま湖岸を西へ



長蔵小屋周辺で 2013.6.17.



10:07 長蔵小屋横の湖岸の湿原 ここも水芭蕉は盛りを過ぎていました 2013.6.17



長蔵小屋 2013.6.17.

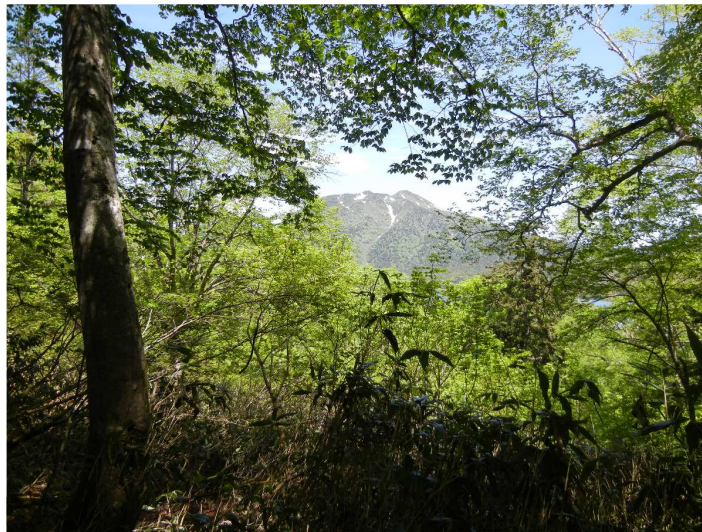


長蔵小屋から眺める燧ヶ岳 2013.6.17.





10:25 三平峠下に戻って大清水へ 三平峠への木道を登って行く 2013/6/17



10:55 木道を何度か折れ曲がるとあっけないほどで三平峠 2013.6.17.
ここからは大清水まで 長いくだりが続く



尾瀬沼と大清水を結ぶ三平峠 2013.6.17.





木道と割り石を並べた場所とが交互に出てくるよう整備された道。こんな道が今回尾瀬では何回も遭遇した。非常によく整備されたものではあるが、歩きにくいことこの上ない。表面の高さがそろっていないので、登山靴でも水平に味が運ばず、非常に負担が大きい。特にくだりでは疲れることはなほだし。

一説には ハイヒールで登れないようにするためだとツアーの人が行っていましたが、昔からの山関係者だったらこんな整備はしないだろうと。

足をくじく、転ぶ本当に負担の大きい道整備だと思う。

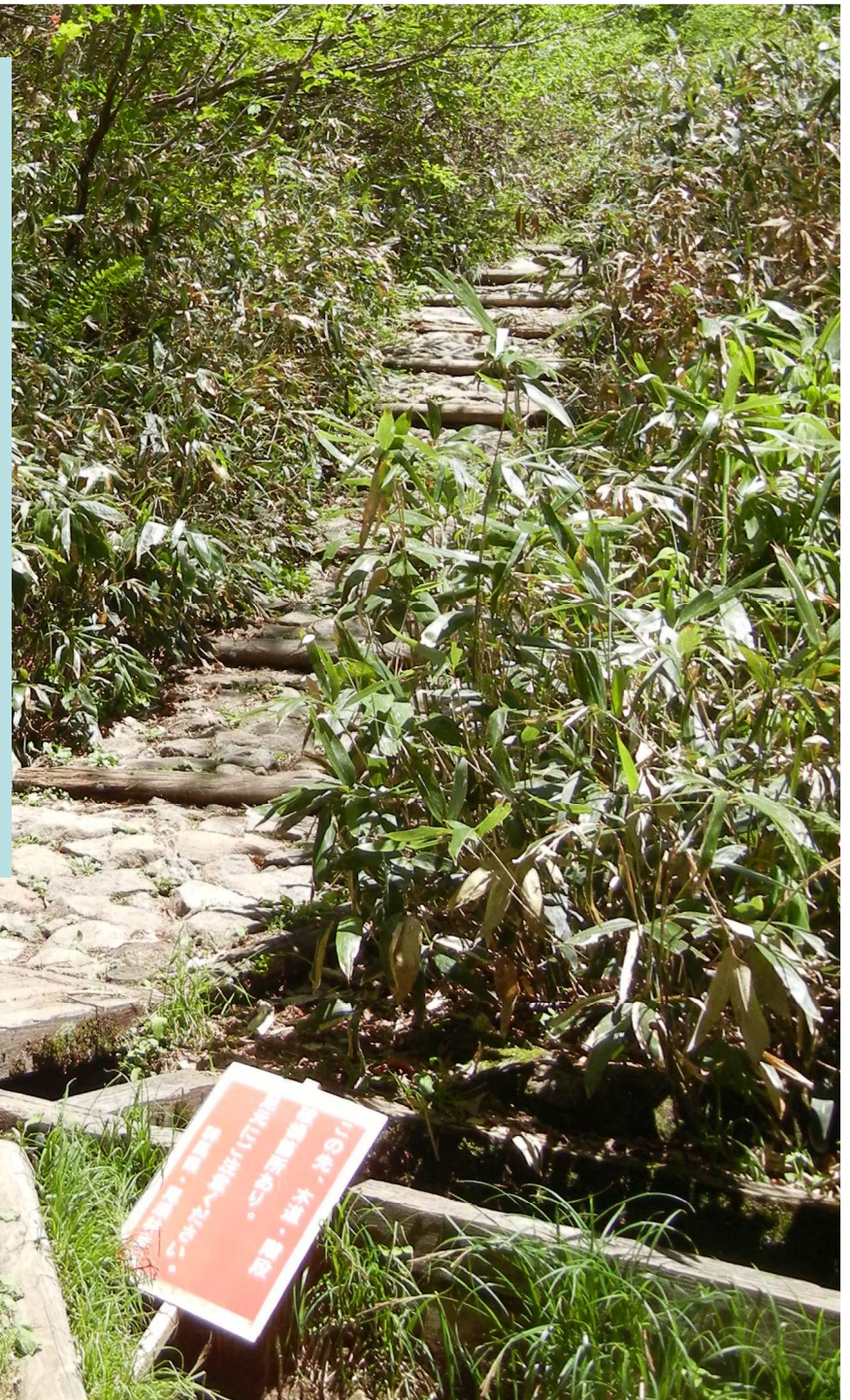
たしかに、最近山を走るやから 自転車で登るやからが多いこの頃、この尾瀬の道を自転車やランニングは無理。

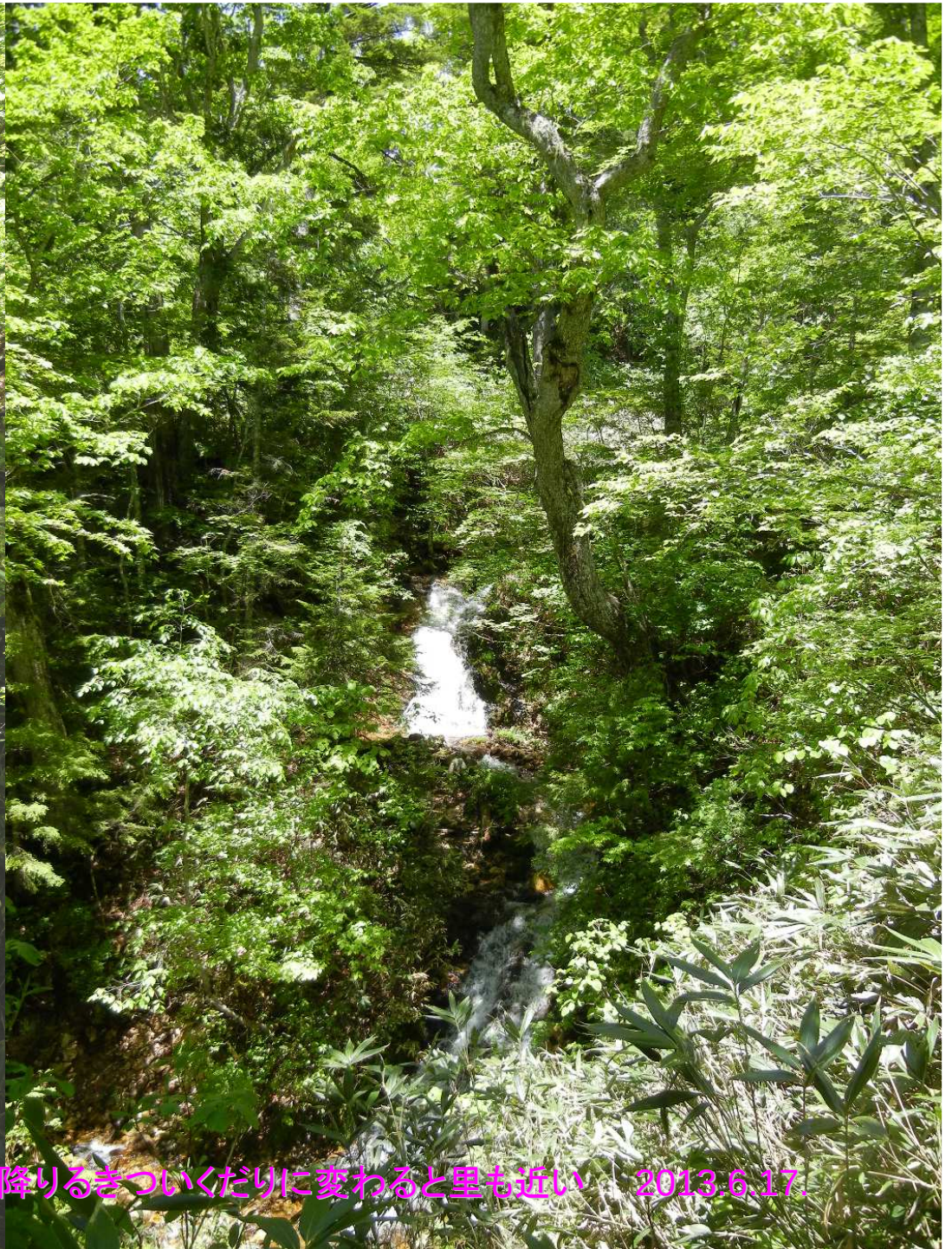
間違いなく足を痛めるだろう。

今回も 転倒で負傷した人 足を緋木津っている人を見たが、尾瀬は誰でも行けると気楽にかんがえると厳しい。

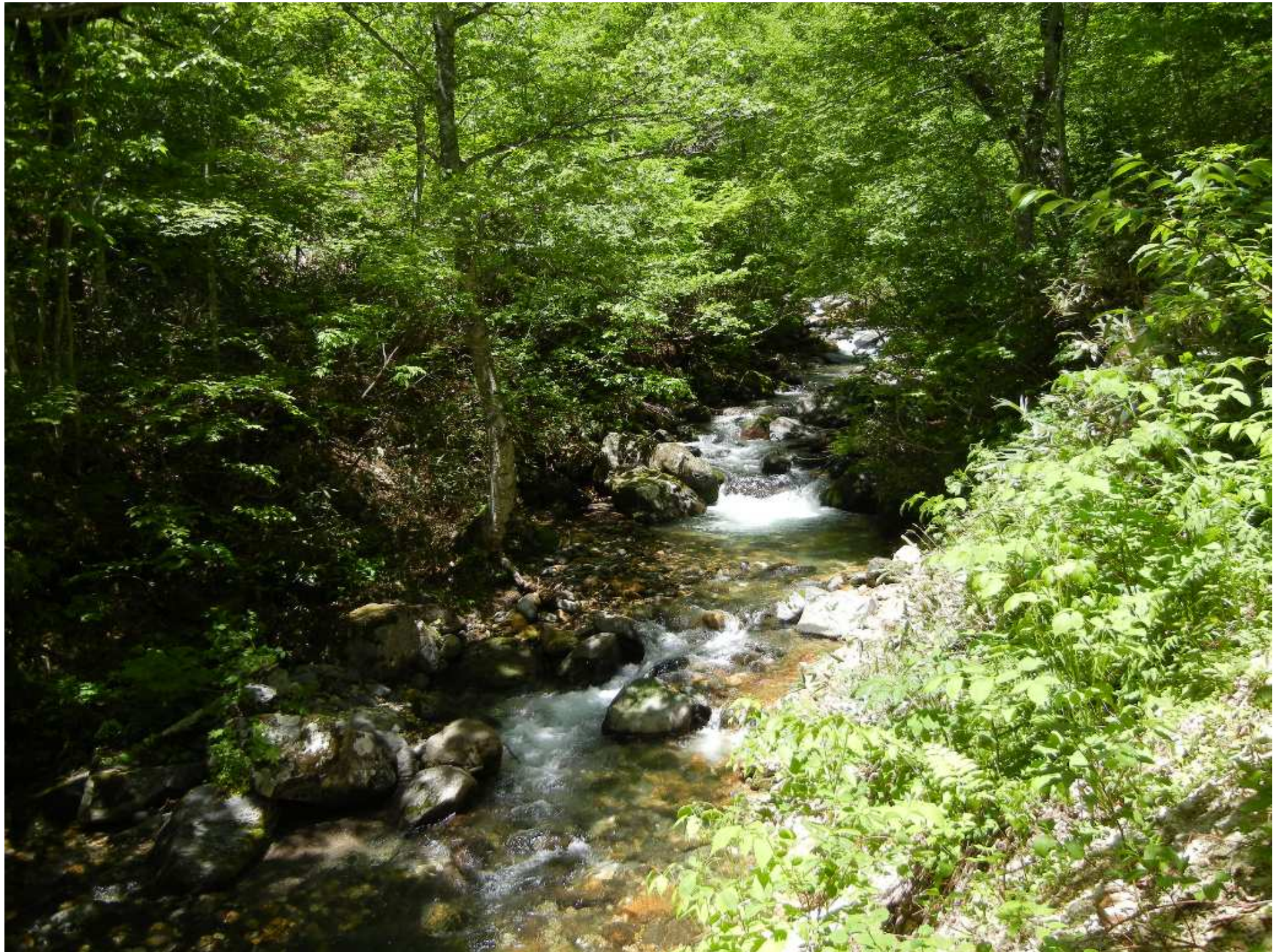
底の硬いトレッキングシューズをはかないツアー客が多い昨今 おそらく足の負傷は多いと思うのですが、そんなこと言っているのは私だけだろうか……

鳩待峠からの道もそうでしたが、とにかく この整備された敷石のごろごろ道はきつい。





山腹のトラバース道から谷筋へ降りるきついくだりになると里も近い 2013.6.17.







11:45 市ノ瀬休憩所に到着 ここからは延々約1時間の車道歩きが大清水まで続く







12:30 大清水到着

12時55分上毛高原行 一本早くバスに乗れる 急いで着替えをして 蕎麦を食べてバスを待つ

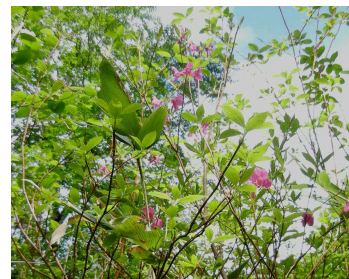
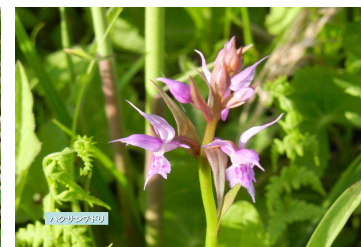
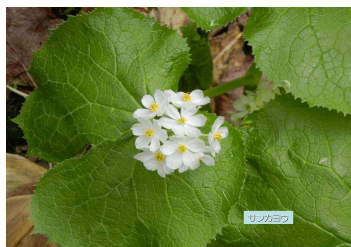




初夏の尾瀬ヶ原・尾瀬沼を歩く 2013.6.16.&17.

初夏6月 尾瀬の草花





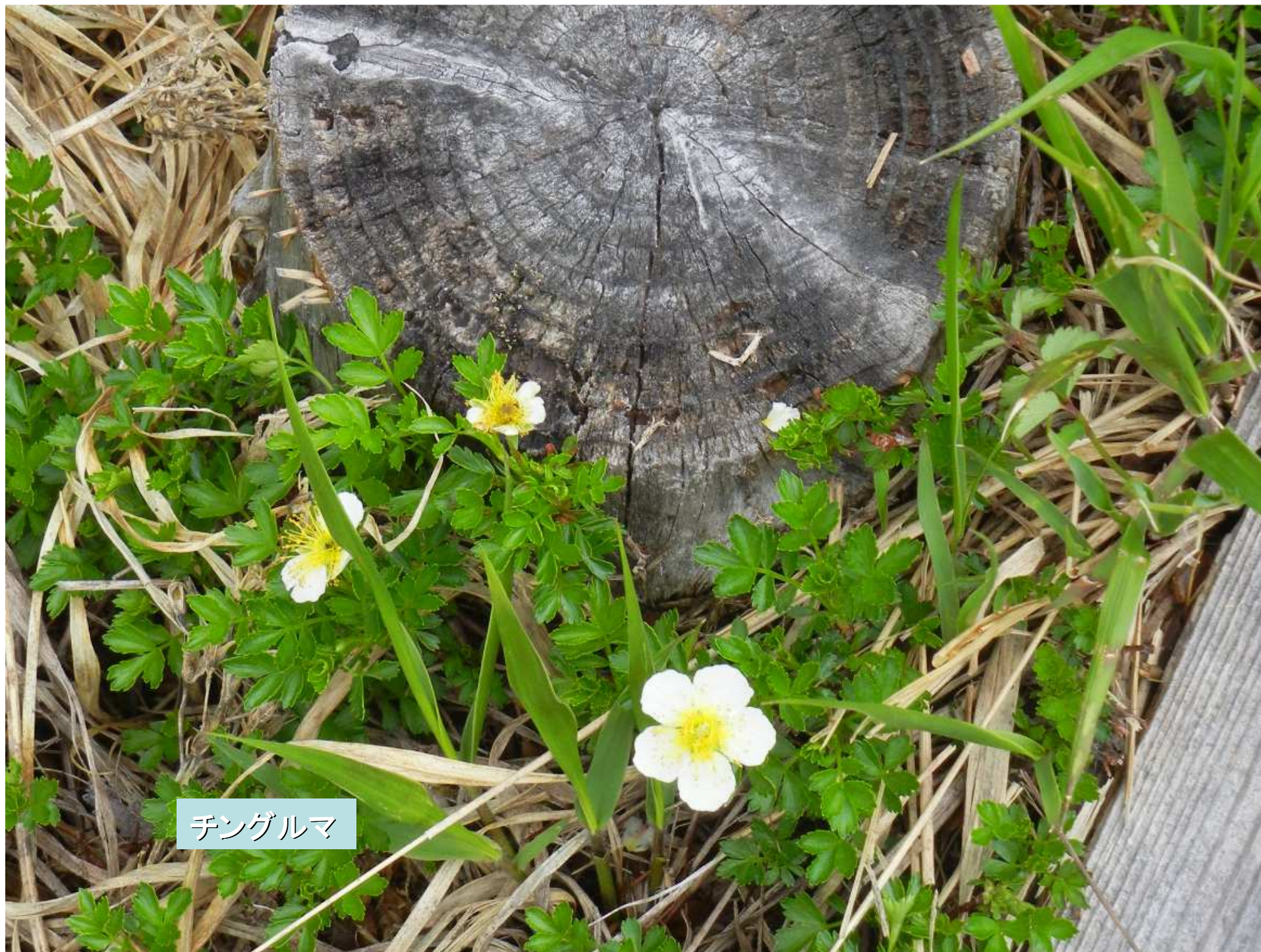
尾瀬で見かけた
初夏の花
2013.6.16.&17.



水芭蕉

シラネアオイ





チンゲルマ



タテヤマリンドウ



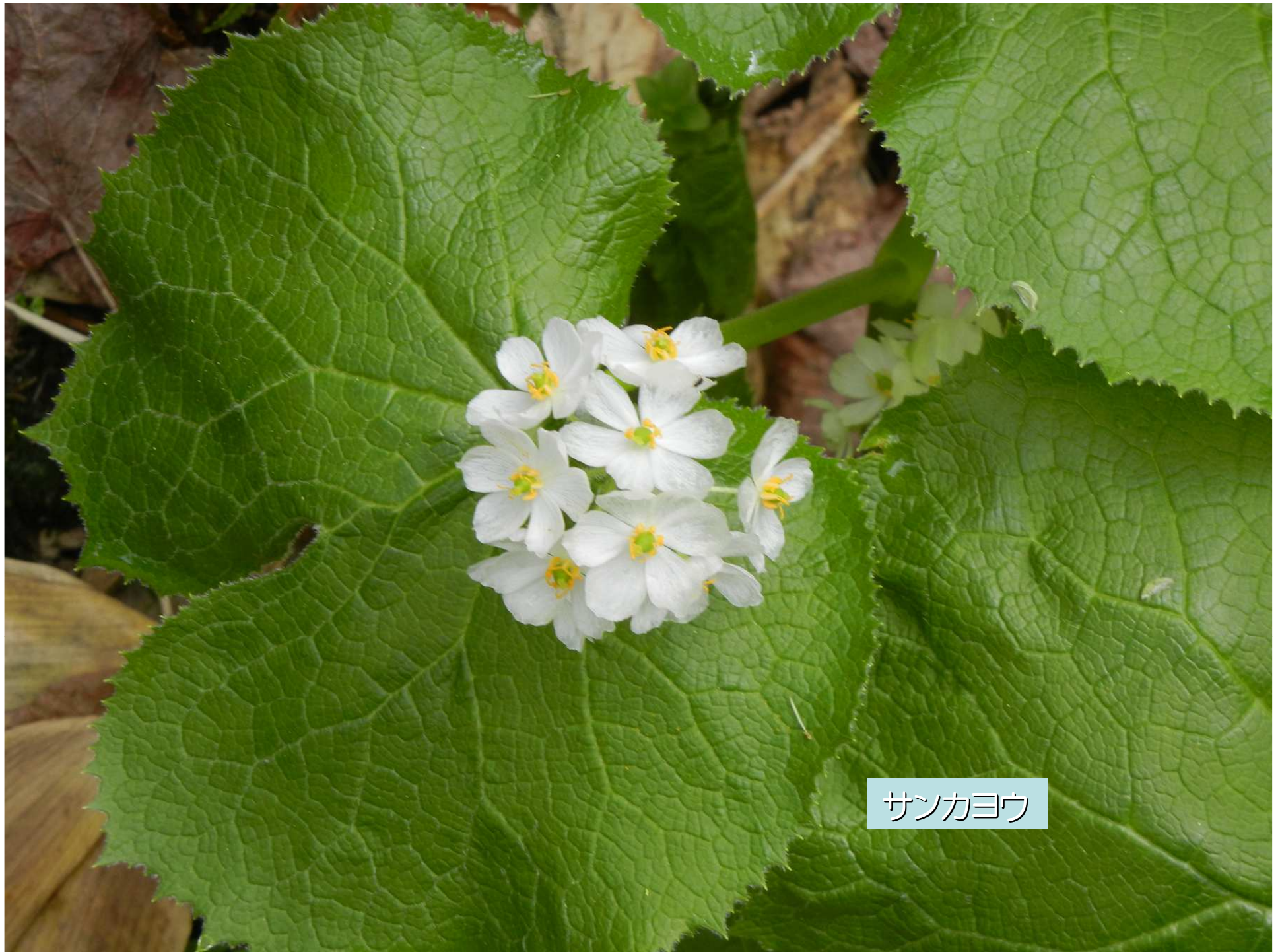
タテヤマリンドウ



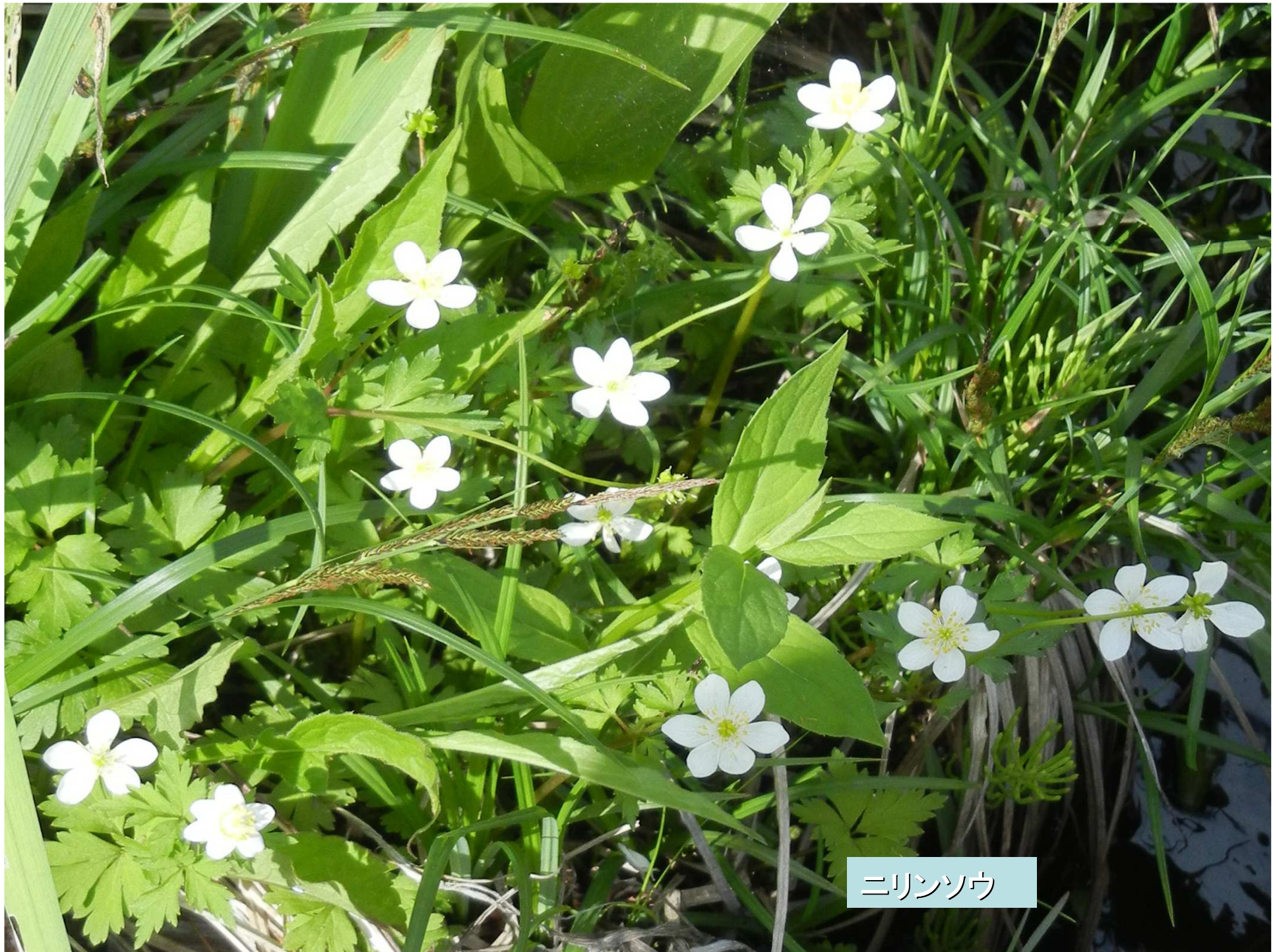
サンカヨウ



ワタスゲ



サンカヨウ



ニリンソウ



オゼタイゲキ



ハクサンチドリ



ムラサキシオツツジ



エンレイソウ





レンゲツツジ



ナガバノモウセンゴケ



ミツガシワ



ヒメシャクナゲ



ヒメシャクナゲ



ミヤマスミレ



リュウキンカ



リュウキンカ





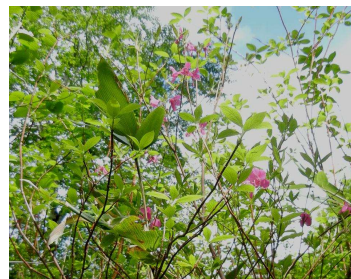
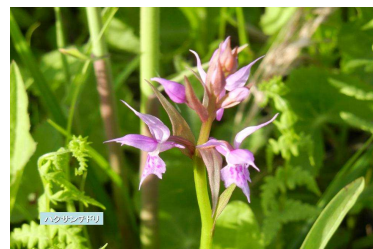
イワカガミ



コバイケイソウ



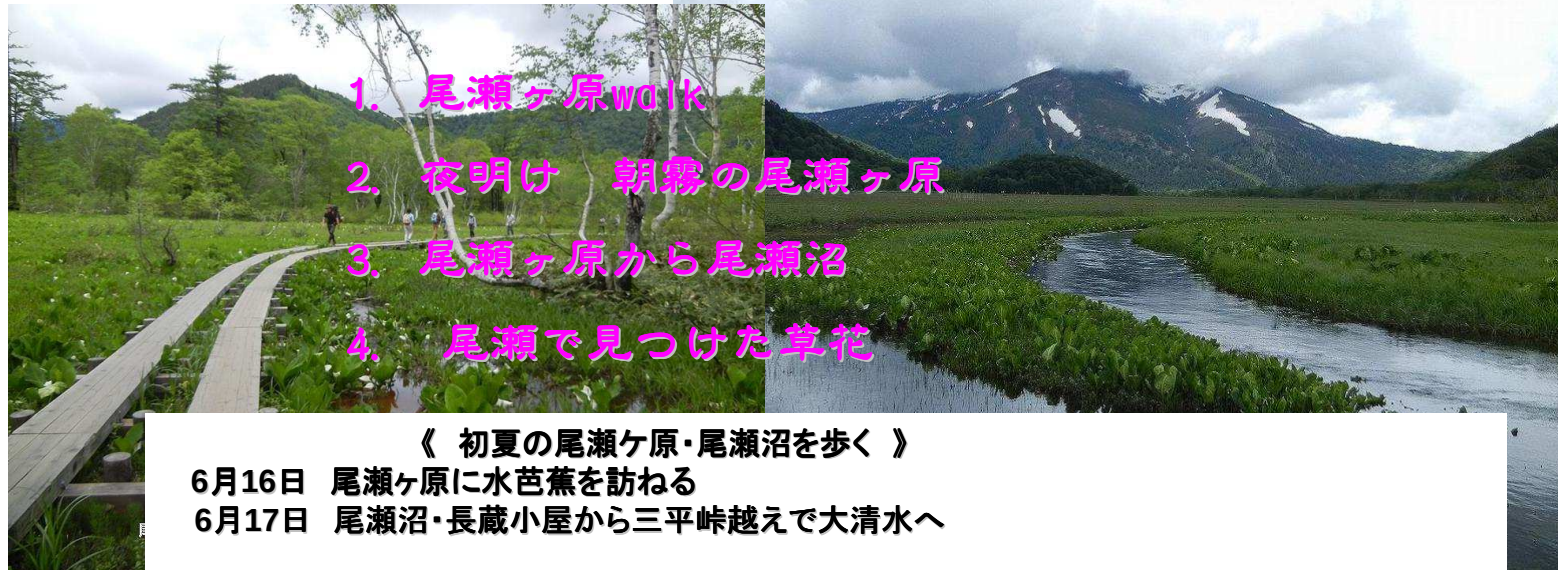




尾瀬で見かけた
初夏の花
2013.6.16.&17.

初夏の尾瀬ヶ原・尾瀬沼を歩く 2013.6.16.&17.

初夏6月 尾瀬の草花



何度も通った尾瀬。変化もしてきましたが、尾瀬の中に入るといつもながら心地いい。少し乾燥化が進み、植生も変化してきたようにも みえ、また、ツアー客の多さにも閉口しましたが、ツアー客がいなくなる午後には 静かな尾瀬が戻ってきて かつて 歩いた時を思い出してはちょっとたずみながら、初夏の尾瀬の景色を楽しみました。梅雨の合間 快晴だったのもラッキー また、数年前の大出水で尾瀬也大被害を受けたと聞いていましたが、安心もし、楽しいWalkでした。

